

令和4年度
事業報告書



社会福祉法人 市原市社会福祉協議会

目 次

トップマネジメント、トップセールスの強化

1. 組織運営事業 1

“社協の見える化・見せる化”の推進

1. 広報事業 3

人財育成及び人材確保

1. 職員研修 4

財政基盤の充実・強化

1. 社会福祉基金運用事業 6

地域の誰もが互いに支え合うコミュニティづくり【共感】

1. 福祉意識の醸成 8
 - ・生活困窮者支援活動
 - ・共生型サロン事業
 - ・子どもの居場所づくり活動
2. 小地域福祉活動の推進 13
 - ・地区社協の活動・運営支援
 - ・小域福祉ネットワークの活動・運営支援

地域のつながりを豊かにするための仕組みづくり【共創】

1. 地域で孤立させない取組の強化 19
 - ・寄り添い支えていく体制の強化
 - ・生活を支えるための体制の強化
2. 地域福祉力の向上 33

地域で安心して幸せに暮らすための基盤づくり【共生】

1. 地域で活躍する人材の育成 34
 - ・ボランティア活動の推進
2. 権利擁護の推進 38
 - ・市原市成年後見支援センターの設置・機能の充実
3. 災害対応力の向上 41
 - ・災害ボランティアセンターの体制強化
 - ・災害ボランティアの育成・確保

指定管理施設の運営

1. 指定管理施設管理経営事業 44

トップマネジメント、トップセールスの強化

1. 組織運営事業

健全な社会福祉事業の経営と公正な法人運営を維持するため、次のとおり各会議を開催した。

(1) 正副会長会議

期日	内容
4月6日	1. 令和4年度社会福祉協議会会議日程について
5月18日	1. 令和4年度「参加支援の場づくり事業」新規受託について 2. 令和4年度 第1回理事会及び評議員会上程議案について
6月8日	1. 令和4年度市原市社会福祉協議会福祉顕彰事業について
7月13日	1. 社会福祉法人の公益的な取組との連携について 2. いちはらフードネットワーク事業について 3. よつばちゃんのフードパントリーについて 4. 令和4年度「歳末たすけあい運動協力事業」の取り扱いについて
8月10日	1. 市社協第3次発展強化計画の評価について 2. 第4次市社協発展強化計画骨子案について
9月14日	1. 第4次社協発展・強化計画たたき台（案）について 2. 各会議体の日程調整について
10月12日	1. 第4次社協発展・強化計画たたき台（案）について
11月9日	1. 社協だよりの配布方法について 2. 令和4年度福祉顕彰事業 表彰・感謝状候補者（案）について 3. 令和4年度第3回理事会日程調整について
12月7日	1. 令和4年度第3回理事会上程議案について
1月18日	1. 令和4年度福祉顕彰事業について 2. 令和4年度第4回理事会・評議員会日程調整について
2月8日	1. 令和4年度福祉顕彰事業について 2. 第4次社協発展強化計画について
3月8日	1. 令和4年度第4回理事会及び第3回評議員会上程議案について 2. 令和5年度正副会長会日程調整について

(2) 理事会及び評議員会

項目	期日	議案等
第1回理事会 (決議の省略)	4月1日	1. 常務理事の選任について
監査	5月17日	令和2年度分監査
第2回理事会 (19名出席)	6月6日	1. 令和3年度事業報告の承認について 2. 令和3年度決算の承認について 3. 参加支援の場づくり事業の新規受託について 4. 会計規程の一部改正について 5. 令和4年度第1回補正予算（案）について 6. 処務規程の一部改正について 7. 社会福祉法人市原市社会福祉協議会いちはらフードネットワーク事業実施要綱の制定について 8. 評議員候補者の選任について 9. 令和4年度第1回評議員会の開催について
第1回評議員会 (36名出席)	6月24日	1. 令和3年度事業報告の承認について 2. 令和3年度決算の承認について 3. 参加支援の場づくり事業の新規受託について 4. 令和4年度第1回補正予算（案）について

第3回理事会 (13名出席)	12月16日	1. 副会長の選任について 2. 令和4年度第2回補正予算(案)について 3. 定款の一部変更について 4. 役員、評議員選出規則の一部改正について 5. 会計規程の一部改正について 6. 市原市社会福祉協議会会長表彰状、感謝状の贈呈者の承認について 7. 評議員候補者の選任について 8. 令和4年度第2回評議員会の開催について
第2回評議員会 (決議の省略)	1月28日	1. 令和4年度第2回補正予算(案)について 2. 定款の一部変更について 3. 役員の選任について
第4回理事会 (16名出席)	3月20日	1. 専決処分の承認を求めることについて 2. 令和4年度第3回補正予算(案)について 3. 共生型サロン事業実施要綱の制定について 4. 子どもの居場所づくり事業実施要綱の制定について 5. 第4次社協発展・強化計画の策定について 6. 令和5年度事業計画(案)について 7. 令和5年度予算(案)について 8. 令和4年度第3回評議員会の開催について
第3回評議員会 (37名出席)	3月28日	1. 令和4年度第3回補正予算(案)について 2. 令和5年度事業計画(案)について 3. 令和5年度予算(案)について

(3) 常任委員会

期日	内容
9月12日	1. 第3次社協発展強化計画の評価について 2. 第4次社協発展・強化計画 骨子案について
10月26日	1. 第4次社協発展・強化計画 たたき台案について

(4) 評議員選任・解任委員会

期日	内容
6月8日	1. 評議員の選任について
2月27日	1. 評議員の選任について

(5) 福祉顕彰事業

市内の社会福祉の増進に寄与された方々に対して、表彰状及び感謝状の贈呈をした。

期日	2月18日(土)
場所	市原市市民会館小ホール
内容	1. 表彰状及び感謝状贈呈 (1) 表彰状 100名 (2) 感謝状 119名、26団体 2. いちはら社協の活動紹介

成果	新型感染症における行動制限も段階的に緩和されたことにより、各会議体も通常開催することができ、議論を通じての意思決定をすることができた。また、3年に一度開催する福祉顕彰事業では、受彰者123名、18団体の参加をいただき、表彰状及び感謝状を贈呈することができた。併せて、第2部では本会の活動を動画を活用し紹介することで、理解促進につなげることができた。
課題・方向性	今後も正副会長会の定例開催を行い、法人の抱える課題の共有に努め、解決に向けた検討を重ねていく。また、各会議体においても有意義な議論を行える環境づくりに努めていく。

"社協の見える化・見せる化"の推進

1. 広報事業

社会福祉への意識の高揚と社協の事業・活動への理解、認識の向上を目的に広報活動を行った。

(1) 機関紙「いちほら社協だより」の発行

79,000部を年2回(町会世帯数)、89,100部を年2回(新聞折込み)発行した。

号数	241号	242号	243号	244号
発行日	5月20日	9月5日	1月20日	3月5日
頁数	4頁	4頁	4頁	4頁

(2) ホームページの運営

最新の情報を掲載し、市民の皆様役に役立つ福祉情報を発信するため、情報提供の迅速化を図った。

市原市社会福祉協議会ホームページ：<http://www.ichihara-shakyo.or.jp>

(3) SNSの運営

ソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)を運営し、より多くの皆様に迅速かつ適切な情報を発信した。

Twitter(ツイッター)：https://twitter.com/ichihara_ytb

Facebook(フェイスブック)：<https://www.facebook.com/ichiharayotuba/>

社協公式LINE：市社協本部 @111xpewj 社協関係施設LINE：@612nqqzy

社協YouTube：<https://www.youtube.com/channel/UC7NZJKj8QYd0cnHHXXERyXw>

成果	SNS を利用しリアルタイムで情報発信を継続的に行った。特に昨年度より導入した公式LINEは、児童館を利用している子育て世帯の方々から好評を得ており、登録者数が増加している。 ◇ ホームページ【閲覧回数9,614回】 ◇ ツイッター【閲覧回数15,300回】 ◇ フェイスブック【閲覧回数6,438回】 ◇ 公式LINE【登録者数342人】 ◇ YouTube【投稿数2本、総再生回数753回】
課題・方向性	ツイッターや公式ラインなど、市民が気軽に閲覧することができるツールを活用し、積極的な情報発信を行うことで本会の理解促進や施設の利用率の向上を図る。

人財育成及び人材確保

1. 職員研修

「職員研修規程」に基づき、職務の遂行に必要な資格、知識及び技術を習得させるとともに、社会福祉の向上に資するため次のとおり実施した。

(1) 職場研修

	研修内容	期日	研修場所	受講者数
総務管理グループ				
第1回	いちほら社協の決算書	6月3日 6月16日 6月24日	事務局	5名
第2回	社協の憲法を理解しよう!!	8月4日 8月9日	事務局	5名

第3回	社協会計を知らう！	8月16日 9月16日 9月27日	事務局	5名
地域生活支援グループ【生活支援チーム】				
第1回	・令和3年度生活支援チーム・ボランティアセンター事業報告及び評価・課題共有 ・参加支援の場づくり事業の概要について ・災害ボランティア養成講座企画案	6月28日	事務局	8名
第2回	災害ボランティア設置訓練及び災害ボランティア養成講座の企画案について	12月5日	事務局	8名
地域生活支援グループ【地域支援チーム】				
第1回	・共生型サロン事業の推進方策について ・子どもの居場所づくり事業の推進方策について	2月2日	事務局	5名
第2回	制服リユース活動の検証と今後について	3月28日	事務局	5名
地域生活支援グループ【西部エリア推進センター】				
第1回	子どもの居場所づくり事業の推進について	12月21日	アネッサ	4名
第2回	災害ボランティアセンターの設置訓練について	2月3日	アネッサ	7名
第3回	新たな相談支援体制の構築に係る保健福祉センターでの役割について	3月1日	アネッサ	8名
地域生活支援グループ【中部・南部エリア推進センター】				
第1回	福祉避難所について	1月25日	サンハート	3名
第2回	社協の見える化・見せる化（地域におけるSNSの活用に向けて）	2月9日	サンハート	3名
第3回	個別相談を通じた新たな資源の創出について（南総）	3月10日	サンハート	3名

(2) 職場外研修

研修名	研修内容	期日	研修場所	受講者数
第58回関東ブロック郡市区町村社協職員合同研究協議会	・社協職員として地域の人に何ができるか ・注文をまちがえる料理店のこれまでとこれから ・分科会	7月7日 7月8日	ホテルグリーンタワー幕張	3名
令和4年度市町村社会福祉協議会事務局長会研修会	社会福祉協議会におけるリスクマネジメント	7月15日	オンライン研修	1名
令和4年度市町村社会福祉協議会会長・事務局長合同研修会	今後の社協活動の方向性について	10月26日	千葉県経営者会館	2名
令和4年度千葉県コミュニティソーシャルワーカー育成研修	コミュニティソーシャルワークの手法を学び、必要な知識、技術を身につける	9月8日 9月24日 9月25日 12月17日 12月18日	ホテルグリーンタワー幕張 ペリエホール 千葉県経営者会館	2名
令和4年度「会計実務講座初級コース」	社会福祉法人における会計実務の基礎から財務管理まで段階的に学び、会計の知識を幅広く習得する	10月31日 ～ 11月2日	ロフォス湘南	1名
令和4年度「会計実務講座中級コース」	社会福祉法人における会計実務、財務管理の応用まで段階的に学び、会計の知識を幅広く習得する	12月11日 ～ 12月13日	ロフォス湘南	1名
福祉職員キャリアパス対応生涯研修～チームリーダー編～	自らのキャリアアップの道筋を描き、それぞれのキャリアパスの段階に応	11月21日 11月28日	オンライン研修	4名

	じて求められる能力を段階的・体系的に習得する			
令和4年度総合相談・生活支援事例検討会	社協の総合力強化（向上）に向けて、事業・部署を横断した事例検討を通じた、多様な視点からの利用者理解、事業・部門間の連携、個別支援と地域支援の一体的な展開を学ぶ	1月24日	オンライン研修	1名
令和4年度成年後見制度利用促進体制整備研修（応用研修）	「第2期成年後見制度利用促進基本計画」を踏まえ、担当する職員の全国水準の確保、十分な専門性を有する人材を養成する事を目的とする	2月6日 2月7日 2月15日	オンライン研修	1名
令和4年度日常生活自立支援事業専門員実践力強化研修会Ⅱ	専門員として、利用者の意思尊重支援を基本に利用者の権利擁護を図り地域で自立した生活を支援していくため、ソーシャルワーカーとしての専門性をさらに高める	2月9日 2月10日	ロフォス湘南	1名
令和4年度法人後見専門員研修会	成年後見制度における意思決定支援について理解を深め、今後の活動推進に活かす技術を身に付ける	2月13日	オンライン研修	1名
成年後見制度利用促進体制整備のための千葉県会議・セミナー	「第二期成年後見制度利用促進基本計画」に基づく包括的な支援体制の構築と権利擁護支援について理解を深める	2月21日	オンライン研修	1名
市原市障がい者支援協議会権利擁護部会障がい者虐待防止事案検討会	障がい者だけでなく、高齢者を含む複合的な虐待への対応力向上、対応への共通理解、人材育成を目的とする	2月21日	五井公民館	1名

成果	オンライン研修も一般的になり、参加も容易になったことで多くの外部研修に参加することができた。各々の担当部署におけるスキルアップに繋がる研修への参加が多く、職員の意識向上により業務の円滑な進行が期待される。特に今後も多くの需要が見込まれている成年後見制度関連の研修に積極的に参加し、後見支援センター職員の資質向上を図った。
課題・方向性	職場外研修への参加だけでなく、職場内での業務の理解や円滑な進行を可能とするOJTを強化し、更なる資質向上を目指す。

財政基盤の充実強化

1. 社会福祉基金運用事業

(1) 社会福祉基金管理

幅広い地域福祉活動を進めていくための財源として有効的な活用を行った。

① 積立金

種別	積立預入先	金額
普通預金	千葉銀行	4,112,335円
定額預金	ゆうちょ銀行	10,000,000円
定期預金	J Aバンク	10,000,000円
定期預金	千葉興業銀行	10,000,000円
定期預金	京葉銀行	10,000,000円
定期預金	君津信用組合	10,000,000円
積立合計		54,112,335円

② 債 券

種別	銘柄名	金額
公募地方債	政府保証債第 284 回日本高速 道路保有債務返済機構債権	100,000,000 円
公募地方債	千葉県第 10 回公募公債	100,000,000 円
合計		200,000,000 円

社会福祉基金総額	254,112,335 円
----------	---------------

(2) 社会福祉基金の活用

① 地区社協拠点等整備事業

地区社協の充実・強化を図るため社会福祉基金を取崩し、拠点等整備及び維持管理費の助成を行った。

(整備順)

No.	地区名	拠点整備費	維持管理費	No.	地区名	拠点整備費	維持管理費
1	ちはら台	0 円	240,000 円	5	姉崎	0 円	51,024 円
2	市津	0 円	240,000 円	6	国分寺台	0 円	102,385 円
3	辰巳台	0 円	240,000 円	7	有秋	0 円	78,879 円
4	南総	0 円	52,654 円				
拠点整備費合計：0 地区 (H25 度からの累計 6,961,050 円) 維持管理費合計：7 地区 1,004,942 円							

② 事務局運営経費

地区社協の組織力や運営基盤の強化を図るため、事務局運営経費を交付した。

助成団体	助成金額	備考
地区社協	160,000 円×11 地区=1,760,000 円	1 地区年額 160,000 円

③ 地区社協車両貸与事業

地区社協の生活課題を抱える地域住民への生活支援体制と充実強化に資するため車両の貸与（リース）を行った。

地区名	車両リース代	備考
辰巳台	200,640 円 (16,720 円/月×12 回)	コーディネート業務及び買い物代行として

社会福祉基金活用額合計	2,965,582 円
-------------	-------------

1. 福祉意識の醸成

(1) 地域・福祉を知る機会の充実

①地域福祉活動の見える化・見せる化の推進

(ア) SNS を活用した情報発信と動画コンテンツの作成・配信

「いちほらファミリー・サポート・センター事業」と「市原市出産前後家事サポート事業」の動画を作成し事業の周知を図った。また、一部の地区社協や小域福祉ネットワークにおいて、フェイスブックやツイッターなどの SNS を活用し地域福祉活動の周知を図った。

(イ) いちほら社協の活動紹介

福祉関係者が一堂に会する令和 4 年度市原市社会福祉協議会福祉顕彰事業の第 2 部で「いちほら社協の活動紹介」を行い、本会の実施する主な取組みの周知を図った。

②生活困窮者支援活動の推進

(ア) 「いちほらフードネットワーク」(市原市独自のフードバンク)の開設

生活困窮者を地域全体で支える仕組みづくり(困った時はおたがいさまの地域づくり)に向けて、食料の支援が必要な世帯に対し、無償で食品を提供する常設型の「いちほらフードネットワーク」(市原市独自のフードバンク)を開設した。また、食品を安定的・効果的に確保するため、企業の社会貢献活動と連携した取組みを展開した。

協力企業	食品募集場所・期間
(株)イトーヨーカ堂	イトーヨーカ堂アリオ市原店・姉崎店 ※フードドライブ実施に関する覚書締結 令和 4 年 8 月 1 日～令和 5 年 7 月 31 日
マックスバリュ(株)	マックスバリュ辰巳台店 ※食品の提供・譲渡に関する合意書締結 令和 4 年 10 月 1 日～令和 5 年 9 月 30 日

<食品受け入れ、提供実績>

年度	食品受け入れ数	食品受け入れ重量	食品提供数	食品提供重量
R4 年度	8,442 品	2,892.58 kg	4,213 品	1,794.91 kg

成果	(株)イトーヨーカ堂とフードドライブ実施に関する覚書、マックスバリュ関東(株)と食品の提供・譲渡に関する合意書の締結を通じ企業との連携づくりに繋がった。店舗に常設型の食品募集 BOX を設置、来客や地域住民等から 合計 8,442 品、2,892 kg の食料品の寄付が集まった。食糧支援が必要な世帯への提供や地域・子ども食堂への支援、生活困窮者への支援等(4,213 品 1,795 kg)に活用した。
課題・方向性	継続的な取組みを通じ、広く住民へ「困った時はお互いさま」の意識醸成に向け食品提供の呼び掛けを実施し、食品提供を通じ支援が必要な世帯との繋がりが強化に繋げる。また、地域・子ども食堂等の団体への食品の提供を通じた、居場所活動の活性化支援も行っていく。

(イ) フードパントリーの開催

生活困窮者を地域全体で支える仕組みづくり(困った時はおたがいさまの地域づくり)の一環として、子育て家庭等に対して食品を無償で提供するイベント型の「よつばちゃんのフードパントリー」を開催した。

期日	8 月 6 日(土)
場所	夢ホール
参加者	五井地区を中心とした子育て家庭(計 58 世帯)
内容	・地域住民、企業等の協力により寄贈された食品等を無償で配布 ・生活上の困りごとに関する相談の受付

成果	地域住民、企業等から食料品 計 35 種 2,910 品の寄贈が得られた。気軽な福祉活動として地域住民への周知や食品提供の協力が得られやすく、また、当日は来場家庭と地域の福祉活動者が事業を通じ顔の見える関係づくりに繋がった。 また、本事業の実施に際し地区社会福祉協議会、小域福祉ネットワークや町会長会等の地域団体、いちほら生活相談サポートセンター等の専門機関等々と連携して事業実施をしたことで今後の支援に向けた連携体制構築の契機となった。
課題・方向性	今後もフードパントリーの試行実施を継続し、実施地区の拡充を図り「困った時はお互いさま」の住民意識の醸成を全市的に図っていくとともに、関係機関と連携しながら、新たな生活困窮者支援（独自のフードバンク）に向けた環境整備に取り組む。

(ウ) 制服リユース事業の試行実施

生活困窮者を地域全体で支える仕組みづくり（困った時はおたがいさまの地域づくり）の一環として、中学校へ入学する子どもを持つ家庭を対象に、不要となった制服の寄付を募り必要な家庭へ無償で提供する制服リユース活動を、今年度は国分寺台地区で試行的な取り組みとして実施した。

〈ニーズ件数〉

対象家庭	希望数
国分寺台小、西小、東小学校 6 学年家庭 (令和 5 年 1、2 月にニーズ調査チラシを配布)	17 世帯

〈制服募集〉

対象家庭	寄付件数
国分寺台中全家庭、国分寺台西中学校 3 学年家庭 (令和 5 年 2、3 月に寄付募集チラシを配布)	139 点 (令和 5 年 3 月 15 日に国分寺台中 武道館で寄付受付)

〈制服提供〉

対象家庭	提供数
国分寺台小、西小、東小学校 6 学年家庭	7 世帯 31 点 (令和 5 年 3 月 16 日以降随時受け渡し)

成果	生活困窮者支援活動と絡め子育て家庭への支援に繋がる初の取組みとして、教育委員会や地区内の小中学校・PTAと密に連携したことで、想定より多くの方に取組みの趣旨を理解いただき申込や寄付に繋がった。また、改めて当事者、学校関係者、地域福祉活動実践者が、身近な地域で住民同士が支え合う「困ったときはお互いさまの地域づくり」の重要性を認識する契機となった。
課題・方向性	ニーズ把握、寄付募集、制服提供を短期間に行ったため、制服の受け渡しまで時間を要してしまった。今後、対象地区を広げて実施していく際には、一定数の制服を確保した後に、ニーズ調査、マッチングを行うような仕組みが必要である。

③福祉バザー事業・歳末たすけあい募金事業

歳末たすけあい運動への協力として実施していた「福祉バザー」については、新型コロナウイルスの影響により中止とし、全地区で「歳末たすけあい募金」を実施した。

〈歳末たすけあい募金〉

地区	募金額	募金額 (R3)	前年比	備考
市原	648,930 円	713,950 円	△65,020 円	
五井	824,220 円	817,922 円	6,298 円	
加茂	132,400 円	186,400 円	△54,000 円	
国分寺台	351,550 円	374,611 円	△23,061 円	
千種	109,014 円	145,000 円	△35,986 円	
姉崎	347,400 円	399,300 円	△51,900 円	

三和	295,339 円	261,500 円	33,839 円	福祉バザー中止のため、 歳末募金を実施
市津	309,241 円	563,336 円	△254,095 円	
辰巳台	184,000 円	264,833 円	△80,833 円	
南総	658,420 円	749,370 円	△90,950 円	
有秋	315,500 円	350,980 円	△35,480 円	
ちはら台	0 円	16,917 円	△16,917 円	
街頭募金	93,501 円	21,000 円	72,501 円	
個人・団体	34,765 円	5,500 円	29,265 円	
合計	4,304,280 円	4,870,619 円	△566,339 円	

(2) 人と人とのふれあいを育む場の推進

①ふれあいサロン事業の推進

(ア) いきいきサロン

高齢者等に対して、地域住民やボランティアの参画を得て、ふれあいの場や仲間づくりの場等を提供し、地域の中で誰もが安心して暮らせるよう、福祉コミュニティづくりを推進するために実施した。

地区	会場数	開催日数	延参加者数	延支援者数
辰巳台	4 会場	46 日	943 名	250 名
市津	9 会場	26 日	414 名	52 名
国分寺台	3 会場	12 日	351 名	129 名
ちはら台	2 会場	6 日	107 名	83 名
姉崎	2 会場	21 日	414 名	208 名
有秋	1 会場	7 日	228 名	62 名
南総	14 会場	71 日	1,434 名	437 名
加茂	1 会場	0 日	0 名	0 名
五井	3 会場	4 日	91 名	31 名
市原	5 会場	66 日	722 名	368 名
合計	44 会場	259 日	4,704 名	1,620 名
R3 年度	48 会場	108 日	1,878 名	553 名
増 減	▲4 会場	151 日	2,826 名	1,067 名

(イ) はつらつサロン

心身障がい者（児）等に対して、地域住民やボランティアの参画を得て、ふれあいの場や仲間づくりの場等を提供し、地域の中で誰もが安心して暮らせるよう、福祉コミュニティづくりを推進するために実施した。

地区	会場数	開催日数	延参加者数	延支援者数
国分寺台	1 会場	3 日	64 名	19 名
ちはら台	1 会場	4 日	57 名	26 名
合計	2 会場	7 日	121 名	45 名
R3 年度	2 会場	3 日	23 名	25 名
増 減	—	4 日	98 名	20 名

(ウ) 子育てサロン

子育て家庭等に対して、地域住民やボランティアの参画を得て、ふれあいの場や仲間づくりの場等を提供し、地域の中で誰もが安心して暮らせるよう、福祉コミュニティづくりを推進するために実施した。

地区	会場数	開催日数	延参加者数	延支援者数
辰巳台	1 会場	40 日	421 名	230 名
市津	1 会場	9 日	131 名	75 名
国分寺台	1 会場	12 日	83 名	41 名
ちはら台	3 会場	99 日	686 名	412 名
姉崎	1 会場	11 日	319 名	164 名
有秋	1 会場	6 日	48 名	35 名
三和	1 会場	10 日	84 名	161 名
南総	1 会場	8 日	245 名	95 名
五井	1 会場	10 日	333 名	169 名
市原	4 会場	67 日	1,078 名	273 名
合計	15 会場	272 日	3,428 名	1,655 名
R3 年度	16 会場	160 日	1,790 名	946 名
増減	▲1 会場	112 日	1,638 名	709 名

サロン事業 合計	年度	開催日数	延参加者数	延支援者数
	R4 年度	538 日	8,253 名	3,320 名
	R3 年度	271 日	3,691 名	1,524 名
	増減	267 日	4,562 名	1,796 名

成果	新型コロナウイルスの行動制限が段階的に緩和され、感染対策を講じながら少しずつ活動を再開し、61 会場で、延べ 8,253 名参加(利用)いただき、新型コロナウイルスの影響により少なかった対人との交流の促進に繋がった。
課題・方向性	地域共生社会づくりに向けあらゆる世代の交流を育むため、分野別を実施している「ふれあいサロン事業」から、地域の誰もが気軽に参加でき、また、参加者も活躍できる「(仮称)共生型サロン事業」への移行と推進を図る。

②子どもの居場所づくり活動の推進

(ア) 地域・子ども食堂

地区社協と地域の関係団体等が協働し、子どもたちが多様な地域の方々と食事等を通じたふれあいや健全育成の機会を提供し、地域で子どもたちが安心して暮らせるような福祉コミュニティづくりを推進するために実施した。

地区	開催日数	参加者数	支援者数	内容
辰巳台	12 日	1,311 名	120 名	地域の中で子どもたちが学校、家以外での居場所として集まれる場として開催。レクリエーションや学習支援、食事の提供を行うとともに世代間交流を図った。 【名称：地域・子ども食堂だんだん】
国分寺台	27 日	231 名	233 名	地域の中で子どもたちが学校、家以外での居場所として集まれる場として開催。学習支援や食事の提供を通じて世代間交流を図った。 【名称：地域食堂コンパス】

姉崎	10日	171名	167名	元気な高齢者と高校生等のボランティアの参加のもと、小学校を中心とした、子どもの居場所として開催。レクリエーションや学習支援、食事の提供を行うとともに世代間交流を図った。 【名称：げんき食堂アネッサ】
----	-----	------	------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------

	年度	開催日数	参加者数	支援者数
子どもの居場所 合計	R4年度	49日	1,713名	520名
	R3年度	33日	733名	254名
	増減	16日	980名	266名

(イ) いちはら地域・子ども食堂ネットワーク

市内で地域・子ども食堂を実施する団体等の情報交換や相互交流を促進するとともに、活動の輪を広げることを目的としたネットワーク組織を設立し、その事務局として活動団体の支援の他、市民への周知啓発活動を行った。

項目	期日	参加団体数	内容
第1回チーバ君のおなかこども食堂サミット	6月29日	4団体	5市（木更津・君津・袖ヶ浦・富津・市原）の子ども食堂のネットワークで情報共有・意見交換を行う社協のオブザーバーとして参加
第1回連絡会	7月6日	8団体	<ul style="list-style-type: none"> リーフレットの作成（案）について 新規ネットワーク加入団体の案内 研修の案内 寄附（政府備蓄米）の案内 意見交換
研修会 第2回連絡会	9月7日	7団体	【研修会】 「子ども食堂における衛生管理について」 （市原健康福祉センター 中原夏子氏） 【第2回連絡会】 <ul style="list-style-type: none"> リーフレットの作成（案）について 意見交換
リーフレット発行	12月	9団体	市原市内のネットワーク加入団体の情報を掲載したリーフレットを6,500部作成し、約120の関係機関に配布
千葉県子ども食堂ネットワーク連絡会	1月25日	2団体	いはら地域・子ども食堂ネットワーク事務局として事例発表
第3回連絡会	2月28日	7団体	<ul style="list-style-type: none"> リーフレットの発行について 令和5年度の予定について 連絡事項 令和4年度研修会のアンケートについての意見交換 令和5年度研修会の意見交換
その他	随時		<ul style="list-style-type: none"> 相談（新規立上げ・活動について） 17件 ボランティアの相談・調整 13件 助成金案内・申請支援 9団体12件 食品寄附の引渡し 9団体44件

成果	市内の地域食堂、子ども食堂の実践者同士の繋がりや、新規で立ち上げたい団体や個人の活動を推進するため、ネットワーク会議を定期開催し、研修や積極的な情報交換を行った。また市内の情報を取り込んだリーフレットの作成と配布を行い、各団体の取り組みが周知され、食品寄附やボランティアで活動に参加を希望する方からの相談も寄せられ、住民からの理解促進を図ることができた。
課題・方向性	引き続き、各団体、行政、地域の福祉関係団体等と連携し子どもの居場所づくりを推進していく必要がある。住民による地域・子ども食堂への関心の高さから、今後も継続的・安定的な活動に繋げるため、市社協フードネットワーク事業等と連携した活性化支援に努めていく。

③サロン関係者交流会の開催

(ア) 子育て支援者交流会

子育て支援に携わっている支援者同士の交流の場を提供することで、顔の見える関係づくりを促進するとともに、今後の子育て支援活動の充実に繋げることを目的に実施した。

期日	7月22日(金)
場所	市原市姉崎保健福祉センター 体育室
参加者	79名
内容	【第1部】講演：乳幼児期に育む非認知能力 講師：聖徳大学 聖徳大学大学院 兼任講師 佐野 裕子 氏 【第2部】情報交換：子どもの能力を伸ばすための取組みについて語り合おう

成果	学童クラブの支援員を新たに参加対象としたことで乳幼児期から学童期までの子育て支援者が繋がる機会となった。また、地区毎にグループワークを行うことで、立場の違う子育て支援者同士が情報交換・共有を図ることができ、参加者同士が顔の見える関係づくりや互いの活動の理解に繋がった。
課題・方向性	乳幼児期から学童期までの子育て支援者が繋がり合える場として、今後もそれぞれの支援者の活動がより充実するよう交流会を企画するとともに、日頃から地域の中で子育て支援者同士が情報交換・共有できる体制を目指す。

2. 小地域福祉活動の推進

(1) 地区社協の活動・運営支援

地区社協で行われる会議に地区担当職員が参加し、必要な情報提供、助言、アドバイスをを行う等積極的な支援に取り組んだ。

①地区社協事業一覧

		辰巳台	市津	ちはら台	国分寺台	姉崎	有秋	三和	南総	加茂	五井	市原
基本事業	ふれあいサロン事業	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	広報・啓発事業	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	歳末たすけあい運動協力事業	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	連携・協働体制づくり事業	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	高齢者地域支え合い事業(第2層協議体)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	地区行動計画策定・推進事業	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
先駆的・開拓的事业	日常生活支援事業 (住民参加型在宅福祉サービス)	○	○	○	○		○					
	日常生活支援事業 (事業化・活性化推進サービス)	○	○				○					
	相談支援事業	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	人材育成事業	○	○	○	○		○					
	災害支援ボランティア事業			○				○	○	○		

②地区社協における各会議体の実施概要

年度	開催日数	延参加人数
R4 年度	317 日	3,654 名
R3 年度	297 日	2,801 名
増減	20 日	853 名

③地区社協拠点等整備事業【再掲】

地区社協の充実・強化を図るため社会福祉基金を取崩し、拠点等整備及び維持管理費の助成を行った。
(整備順)

No.	地区名	拠点整備費	維持管理費	No.	地区名	拠点整備費	維持管理費
1	ちはら台	0 円	240,000 円	5	姉崎	0 円	51,024 円
2	市津	0 円	240,000 円	6	国分寺台	0 円	102,385 円
3	辰巳台	0 円	240,000 円	7	有秋	0 円	78,879 円
4	南総	0 円	52,654 円				
拠点整備費合計：0 地区							
維持管理費合計：7 地区		1,004,942 円					

④事務局運営経費【再掲】

地区社協の組織力や運営基盤の強化を図るため、事務局運営経費を交付した。

助成団体	助成金額	備考
地区社協	160,000 円×11 地区=1,760,000 円	1 地区年額 160,000 円

⑤地区社協車両貸与事業【再掲】

地区社協の生活課題を抱える地域住民への生活支援体制と充実強化に資するため車両の貸与（リース）を行った。

地区名	車両リース代	備考
辰巳台	200,640 円 (16,720 円/月×12 回)	コーディネート業務及び買い物代行として

成果	新型コロナウイルスにおける行動制限が段階的に緩和され、地区社協活動が徐々に再開された。各地区において感染症対策や地域共生社会づくりなど創意工夫しながら活動を展開し、また地区担当職員が活動企画の段階から関わるなど継続的な活性化支援を行った。
課題・方向性	今後も、地域共生社会の実現に繋がるよう第 6 次地域福祉活動計画に基づく取組みが着実に進められるよう地区担当職員による継続的な支援に努め、活動の充実を図る。

(2) 小域福祉ネットワークの活動・運営支援

小域福祉ネットワーク行われる会議に地区担当職員が参加し、必要な情報提供、助言、アドバイスを行う等積極的な支援に取り組んだ。

①小域福祉ネットワーク一覧

地区名	校区名	ネットワーク名	設置年月日	安心生活見守り支援事業
辰巳台	辰巳台東小学校区	辰巳福祉ネットワーク	昭和 63 年 6 月 26 日	○
	辰巳台西小学校区			
	白幡小学校区			
市津	旧市東第二小学校区	市東第二小区小域福祉ネットワーク	平成 24 年 10 月 3 日	○
	湿津小学校区	湿津小学校区小域福祉ネットワーク	平成 25 年 11 月 27 日	○
	市東第一小学校区	市東第一小学校区小域福祉ネットワーク	平成 25 年 11 月 28 日	○
ちはら台	水の江小学校区	水の江小学校区小域福祉ネットワーク	平成 18 年 7 月 15 日	○

ちはら台	清水谷小学校区	清水谷小学校区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 12 月 1 日	○
	牧園小学校区	牧園小学校区小域福祉ネットワーク	平成 22 年 11 月 1 日	○
	ちはら台桜小学校区	ちはら台桜小学校区小域福祉ネットワーク	平成 24 年 3 月 30 日	○
国分寺台	国分寺台西小学校区	国分寺台西小学校区ふれあいネットワーク	平成 19 年 2 月 24 日	○
	国分寺台小学校区	国分寺台小学校区ふれんどネットワーク	平成 22 年 2 月 19 日	○
	国分寺台東小学校区	国分寺台東小学校区思いやりネットワーク	平成 24 年 10 月 30 日	
姉崎	姉崎小学校区	姉崎小学校区小域福祉ネットワーク	平成 19 年 2 月 21 日	○
	明神小学校区	明神小学校区小域福祉ネットワーク	平成 21 年 4 月 25 日	
	青葉台小学校区	青葉台小学校区小域福祉ネットワーク	平成 22 年 8 月 1 日	○
有秋	有秋南小学校区	有秋南小学校区安心安全ネットワーク	平成 24 年 1 月 23 日	○
	有秋西小学校区	有秋西小学校区小域福祉ネットワーク	平成 24 年 3 月 14 日	
	有秋東小学校区	有秋東小学校区福祉ネットワーク	平成 24 年 3 月 21 日	○
三和	市西小学校区	市西小学校区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 8 月 2 日	○
	海上小学校区	海上小学校区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 8 月 2 日	○
	養老小学校区	養老小学校区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 8 月 2 日	○
	光風台小学校区	光風台小学校区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 8 月 2 日	○
南総	牛久小学校区	牛久小学校区小域福祉ネットワーク	平成 19 年 1 月 26 日	○
	旧内田小学校区	内田地区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 1 月 22 日	○
	寺谷小学校区	寺谷小学校区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 2 月 21 日	○
	旧平三小学校区	平三地区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 6 月 20 日	○
	鶴舞小学校区	鶴舞地区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 7 月 8 日	○
	戸田小学校区	戸田小学校区小域福祉ネットワーク	平成 21 年 2 月 28 日	○
加茂	旧白鳥小学校区	白鳥地区小域福祉ネットワーク	平成 26 年 2 月 22 日	○
	旧富山小学校区	富山地区小域福祉ネットワーク	平成 26 年 2 月 23 日	○
	旧高滝小学校区	高滝地区小域福祉ネットワーク	平成 26 年 2 月 25 日	○
	旧里見小学校区	里見地区小域福祉ネットワーク	平成 26 年 3 月 24 日	○
五井	白金小学校区	白金小学校区スマイルネットワーク	平成 24 年 3 月 24 日	○
	若葉小学校区	わかば福祉ネットワーク	平成 24 年 4 月 12 日	○
	千種小学校区	千種小学校区小域福祉ネットワーク	平成 25 年 4 月 20 日	○
	東海小学校区	東海小・中学校区小域福祉ネットワーク	平成 25 年 5 月 26 日	○
	国府小学校区	国府小学校区小域福祉ネットワーク	平成 25 年 10 月 9 日	○
	五井小学校区	五井福祉ネットワーク	平成 29 年 12 月 9 日	○
	京葉小学校区	京葉福祉ネットワーク	平成 31 年 2 月 24 日	○
市原	若宮小学校区	若宮小学校区まんまるネットワーク	平成 22 年 5 月 22 日	○
	石塚小学校区	石塚小学校区小域福祉ネットワーク	平成 24 年 3 月 25 日	○
	五所小学校区	五所小学校区小域福祉ネットワーク	平成 24 年 7 月 1 日	○
	菊間小学校区	菊間小学校区小域福祉ネットワーク	平成 25 年 3 月 2 日	○
	八幡小学校区	八幡小学校区小域福祉ネットワーク	平成 25 年 7 月 14 日	○
	市原小学校区	市原小学校区小域ネットワーク	平成 30 年 6 月 2 日	○
4 4 団体（4 6 学校区）			実施 4 1 団体 （4 3 校区）	

③小域福祉ネットワークにおける各会議体の実施概要

年度	開催日数	延参加人数
R4 年度	319 日	4,652 名
R3 年度	259 日	3,388 名
増減	60 日	1,264 名

成果	新型コロナウイルスにおける行動制限が段階的に緩和され、活動を再開するネットワークが多く会議や事業等に地区担当職員が積極的に参加し、地域課題の解決に向けた助言や必要な情報提供を行うなど、活動の活性化支援に努めることができた。
課題・方向性	引き続き、住民に身近な範囲における地域課題、ニーズに基づく小地域福祉活動の活性化に向けた地区担当職員による継続的な活性化支援を行い、活動の充実化を図っていく。

(3) 地区社協連絡会の開催

地区社協活動に関する情報交換、連絡調整及び調査研究等を行うことを目的として、次のとおり地区社協連絡会を開催した。

項目	期日	議題
第1回 地区社協連絡会	5月31日	【会議】 <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度地区社協連絡会について 地区行動計画の見直しについて 社会福祉法人による公益的な取組との連携づくりに向けた訪問活動について 令和4年度第1回「よつばちゃんのフードパントリー」の実施について 【実践発表】 五井地区
第2回 地区社協連絡会	7月29日	【会議】 <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度歳末たすけあい運動協力事業について 社会福祉法人の公益的な取組との連携について (仮称) 共生型サロン事業について 子どもの居場所づくり事業補助金について 【情報提供】 高齢者を住宅火災から守ろう
第3回 地区社協連絡会	9月29日	【会議】 <ul style="list-style-type: none"> 役員等の選出について (仮称) 共生型サロン事業について (仮称) 子どもの居場所づくり事業について 基本事業及びに先駆的・開拓的事業の見直しに係る基本的な考え方について 「よつばちゃんのフードパントリー」の報告について
第4回 地区社協連絡会	11月18日	【会議】 <ul style="list-style-type: none"> 新たな相談支援体制構築の進捗状況について 地区社会福祉協議会助成金交付基準(案)について 社会福祉法人による公益的な取組との連携づくりに向けた訪問活動報告について 【実践発表】 <ul style="list-style-type: none"> 市津地区(市津まごころ収集) 辰巳台地区(辰巳台地域・子ども食堂だんだん)
第5回 地区社協連絡会	2月3日	【会議】 <ul style="list-style-type: none"> (仮称) 共生型サロン事業実施要綱(たたき台)について 子どもの居場所づくり事業実施要綱(たたき台)について 制服リユース活動の施行実施について 【情報提供】 <ul style="list-style-type: none"> 「いちはらフードネットワーク事業」について 「いちはら地域・子ども食堂ネットワーク」について

第6回 地区社協連絡会	3月10日	【会議】 <ul style="list-style-type: none"> ・(仮称) 共生型サロン事業実施要綱(案)について ・(仮称) 子どもの居場所づくり事業実施要綱(案)について ・地区社会福祉協議会助成金交付基準に基づく令和5年度地区社会福祉協議会補助金積算額(案)について 【実践発表】 <ul style="list-style-type: none"> ・げんき食堂アネッサを通じた地域づくりについて(姉崎地区) ・加茂地区生活支援の取組みについて(加茂地区) ・地域主体の子どもの見守り強化事業について(ちはら台地区)
----------------	-------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

成果	今年度も隔月に定期的な会議を開催したことで、第6次地域福祉活動計画を踏まえた、地区行動計画における施策の推進方策等、市社協と一体となり地域福祉を推進していくために必要な情報共有及び意見交換の場となった。加えて、会議を2部構成で開催し、市社協からの提案事項の検討のみではなく、各地区社協から発案できるよう時間を設けたことで、各地区の取組や抱える課題についての共有と意見交換に繋がった。
課題・方向性	今後も隔月開催を継続し、本会と連携協働した地域福祉を推進するための情報共有及び地域福祉活動の活性化に向けた検討の場として活用していく。また、より地区社協からの意見を引き出し、活動上の諸課題を把握しながら、地区からの意見を行政や本会に反映させられるよう「ボトムアップ型」の会議となるような会議運営に努める。

(4) いちはら小域福祉ネットワーク連絡会議の開催

小域福祉ネットワークの更なる推進を図るため、組織間の連携体制を構築するとともに、併せて市全域の地域福祉推進の在り方について検討・協議することを目的に次のとおり開催した。

項目	期日	議題
第1回 いちはら小域福祉ネットワーク連絡会議	7月21日	【会議】 <ul style="list-style-type: none"> ・代表・副代表の選出について ・市社協理事・評議員候補者の選出について ・小域福祉ネットワーク推進事業補助金について ・地区福祉総合相談センターについて
第2回 いちはら小域福祉ネットワーク連絡会議	3月17日	【講演】 「子どもの居場所づくり活動」について 講師：自由登校を見守る会 小暮 晴美 氏 つなぐ Tsunagu 大岩 啓子 氏 【全体会】 <ul style="list-style-type: none"> ・意見交換会(グループワーク) ・いはら救急医療情報キット配布事業の経過報告について

成果	地域課題の解決に向けた地域福祉活動に取り組んできたが、本会の第6次活動計画に基づき新たに子育て分野の取組みを強化するため、「子どもの居場所づくり活動」をテーマに地域で求められる活動や必要な視点などの意見交換を行い、活動実践者の意識の醸成を図った。
課題・方向性	各小域福祉ネットワークが地域課題の解決に向け自発的な取組みが実践できるよう、成功事例などを用いた講義や実践報告、また、グループワークなどを通じ活動上の諸課題などに係る意見交換を行い、より発展的な活動に繋がるような会議の運営に努める。

(5) 地域福祉関係者合同研修会の開催

「地域共生社会」の実現に向けた地域福祉の推進を図るために、支援を必要とする住民（世帯）が抱える多様で複合的な地域生活課題について、地域福祉関係者の共通理解・共通認識を図ることを目的に次のとおり開催した。

期日	1月13日（金）
場所	市原市市民会館 小ホール
参加者	169名
内容	【講演】 「ヤングケアラーへの気づきと支援の在り方」 講師：淑徳大学 総合福祉学部 社会福祉学科 教授 結城 康博 氏 【実践発表】 「中核地域生活支援センターの実践から見えたヤングケアラーの存在」 講師：中核地域生活支援センターいちほら福祉ネット 所長 大戸 優子 氏

成果	地域福祉関係者と地域課題について共通理解・共通認識を図り、今後の支援の方向性を共有することができた。
課題・方向性	地域共生社会の実現に向け、地域に期待される役割が大きくなることから、地域福祉を取り巻く環境や動向の注視と、地域に顕在化・潜在化する課題についての共通理解・共通認識を図りながら、地域福祉関係者の意識醸成、地域福祉活動の活性化に繋がるような機会とし企画に努める。

地域のつながりを豊かにするための仕組みづくり【共創】

1. 地域で孤立させない取組の強化

(1) 寄り添い支えてい

く体制の強化

①新たな相談支援体制の構築

(ア) いちほら総合相談・生活支援事業（市社協窓口相談）

誰もが住み慣れた地域で、自立して暮らせるまちづくりを目指して、住民が抱える生活課題の解決に向けて、包括的かつ重層的な相談支援を行い、課題の解決に向けた個別支援や関係機関との連絡調整を行った。

年度	生計	職業生業	教育子育て	障がい	療養健康	生活	償還	その他	合計
R4年度	369件	2件	161件	6件	3件	15件	14件	10件	580件

【参考】

年度	生計	職業生業	教育青少年	障がい者福祉	冠婚葬祭	療養健康	生活	その他	合計
R3年度	774件	0件	156件	3件	2件	10件	195件	7件	1,147件

※令和4年度より、相談主訴ごとの集計方法に変更。令和3年度との比較増減値は記載なし。

(イ) 各地区における相談事業

地域住民が気軽にできる窓口であり、市社協や関係機関等へのつなぎ役・橋渡し役を担う相談支援事業を行った。

地区	開催日数	延相談人数	延支援者数	内容等
辰巳台	10日	5名	20名	日常生活上の悩みや困りごとに対し、地区住民が身近に相談できる場所を提供することを目的し、辰巳公民館会議室にて毎月第1日曜日13時～16時に開催。
市津	99日	51名	198名	毎週月・水曜日の10時～12時、拠点を活用した相談支援活動を実施。
国分寺台	78日	108名	193名	地区内の様々な問題をサロン開設時や電話、事務所への来所で受付、課題の発見とその解決に向けた事業展開を実施。
ちはら台	245日	33名	302名	地区社協事務所にて相談ブースを設け、週5回、10時～12時に日常生活上の困りごと、助け合い利用相談などを窓口、電話対応等で実施。また、専門機関の協力を得て、月1回「福祉総合相談窓口」を設置。
姉崎	12日	24名	24名	毎月第1水曜日13時～16時に地区社協理事がアネッサ相談室にて実施。
有秋	16日	49名	32名	地域住民の悩み事や困りごとに対し、毎月第2、第4月曜日10時～12時にオアシス有秋にて民生児童委員、地区社協関係者が対応。
三和	10日	15名	156名	子育てサロン開催時に気軽に相談できる場として実施。
南総	51日	6名	77名	南部保健福祉センター相談室において、毎週土曜日13時～15時相談窓口を開設。また、ふれあいいきいきサロン開設時に会場内の一角に相談ブースを設置した。
市原	12日	0名	12名	ふれあいいきいきサロン、子育てサロン開催時に気軽に相談できる場として実施。
五井	10日	1名	20名	五井公民館において、毎月第1木曜日10時～12時で誰でも気軽に相談に来られる場として開設。
加茂	365日	135名	204名	地区の社会福祉法人と連携し、施設内に誰でも相談できる窓口を設置。

年度	開催地区	開催日数	延相談者数	延支援者数
R4年度	11地区	896日	427名	1,238名
R3年度	11地区	737日	272名	902名
増減	—	159日	155名	336名

(ウ) 各地区の新たな相談体制の構築

11地区社協単位で、地域で活動する関連団体や専門機関等と連携し、それぞれの日頃の取組みを通じ地域住民の生活課題や異変に早期に「気づき」、その解決に向けた支援に「つなぎ」、後の生活を地域で「見守る」機能を備えた地区全体の相談支援体制の構築を図った。また、地域全体で取組みの共通理解を深めるため、地区独自の相談支援体制フロー図（相談支援プロセス）を策定した。

成果	法人本部では、新型コロナウイルスの影響に伴い経済的な課題を抱える世帯に対し、生活資金貸付（緊急小口資金等）の相談を切り口に、専門機関等と連携しながら生活の改善に向けた支援に努めた。また、地域の相談窓口（活動）では、新型コロナウイルスにおける行動制限が緩和され、地区社協事業を活用した窓口相談を通じ、地域の身近な相談場所として住民に安心感を与えるとともに、困難ケースなどにおいては専門機関への「つなぎ・橋渡し役」としての役割を担った。また、第6次活動計画に基づき、地区社協を中心に地域関係者と連携した住民が抱える生活課題に「気づき」、課題解決に向けた支援へ「つなぎ」その後の生活を「見守る」機能を備えた、地区ごとの新たな相談支援体制の構築に取り組み、地区ごとの相談プロセスフロー体制図を策定した。
課題・方向性	地区ごとに策定した相談プロセス体制を運用するため、地域関係者との共通理解の徹底に努める。

②民生委員・児童委員活動の支援

市原市民生委員児童委員協議会の事務局として、その活動の推進を図った。

期日		事業名	人数	場所	
月	日				
4	6	令和3年度市民児協第3回地域福祉推進部会	20名	市社協	
	6	令和3年度市民児協第3回主任児童委員部会	20名	市社協	
	7	市民児協会計監査	5名	市社協	
	16	令和3年度市民児協合同部会	20名	市社協	
	22	市民児協第1回正副会長・部会長会議	5名	市社協	
	25	市民児協第1回理事会	14名	市社協	
	28	市民児協第1回代議員会（書面開催）	33名		
5	5～11	児童福祉週間	全委員	市内各地	
	12～18	「民生委員・児童委員の日」活動強化週間	全委員	市内各地	
6	27	市民児協第2回正副会長・部会長会議	5名	市社協	
	30	市民児協第1回地域福祉推進部会	17名	市社協	
7	4	市民児協第1回主任児童委員部会	23名	市社協	
	27	市民児協合同部会	29名	市社協	
8	22	市民児協第3回正副会長・部会長会議	4名	市社協	
9	6	第20回千葉県民生委員児童委員大会	42名	千葉県文化会館	
10	17	市民児協第4回正副会長・部会長会議	4名	市社協	
	25	市民児協第2回理事会	11名	市社協	
11	1	市民児協第2回代議員会（書面開催）	33名		
	11	市民児協全体研修会	254名	市民会館大ホール	
	25	事例検討研修会	10名	君津市生涯学習センター	
12	1	委嘱状伝達式	全委員	市民会館大ホール	
	12/5～ 3/13	全国民生委員・児童委員リーダー研修会	8名	WEB 動画配信	
	7	新任民生委員児童委員研修会	114名	君津市民文化ホール	
	9		市民児協第3回地域福祉推進部会	23名	サンブラザ市原
			市民児協第3回主任児童委員部会	21名	サンブラザ市原
			市民児協第3回理事会	14名	サンブラザ市原
		市民児協理事研修会	14名	サンブラザ市原	
23	市原市新任民生委員児童委員研修会	150名	市民会館小ホール		
1	1/12～ 3/15	新任民生委員児童委員研修会	20名	WEB 動画配信	
2	1	市民児協第5回正副会長・部会長会議	5名	市社協	
	8	相談技法研修会	12名	千葉県教育会館	
	24	単位民児協会会長研修会	10名	千葉市民会館大ホール	
	28	主任児童委員研修会	16名	千葉市民会館大ホール	
3	3	市民児協第4回主任児童委員部会	20名	市社協	
	13	市民児協第4回地域福祉推進部会	21名	市社協	

成果	地域福祉推進部会、主任児童委員部会で検討してきた地域での相談支援体制の充実に向け、各地区民児協単位にチーム・班体制の構築や定例会議のあり方を取りまとめ、市民児協への提案を行い、各地区民児協との調整を図った。また、新規事業として一斉改選後に新任委員向けの研修会を開催し、円滑な活動に結びつくための支援に努めた。
課題・方向性	新型感染症による行動制限も段階的に緩和されつつあることから、民生委員の基本活動である見守り、相談援助などについても徐々に再開し、活動の範囲を広げられるよう地区担当職員を通じた助言を行っていききたい。また、令和5年度から各地区民児協の定例会議において、実際の相談事例を活用しながら支援活動に必要な視点などについて積極的な情報交換を行うこととなるため、地区担当職員によるフォローアップにも努めていきたい。

③安心生活見守り支援事業

一人暮らし高齢者や障がい者世帯、高齢者のみ世帯等の社会的な孤立を防ぐために、定期的な見守り・声掛けを行う安心生活見守り支援事業を実施した。

【地区別実績】

地区	見守り希望者数	訪問員数	延訪問回数	
辰巳台	44名	66名	657回	
市津	27名	79名	456回	
ちはら台	19名	22名	583回	
国分寺台	54名	43名	863回	
姉崎	186名	208名	2,292回	
有秋	19名	30名	196回	
三和	117名	99名	1,801回	
南総	169名	173名	2,477回	
加茂	67名	95名	968回	
五井	154名	180名	1,301回	
市原	244名	273名	6,159回	
年度	実施数	見守り希望者数	安心訪問員数	延訪問回数
R4年度	41ネットワーク (43小学校区)	1,100名	1,268名	17,753回
R3年度	41ネットワーク (43小学校区)	1,163名	1,293名	19,079回
増減	－	△63名	△25名	△1,326回

(ア) 安心訪問員交流会

安心生活見守り支援事業関係者同士の交流や情報交換の場を提供することで、顔の見える関係づくりを促進するとともに、今後の見守り活動の充実に繋げることを目的に下記のとおり開催した。

期日	10月18日(火)
場所	姉崎保健福祉センター(アネッサ)体育室
参加者	「安心生活見守り支援事業」実施の小域福祉ネットワーク代表及び安心訪問員(実践者) 「安心生活見守り支援事業」未実施の小域福祉ネットワーク(組織運営に携わる者) (68名)
内容	<p>【第1部】実践発表 「安心訪問員のお気づき等から地域包括支援センターにつなぎ、解決に至った事例発表」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センターふるさと ・地域包括支援センター市津・ちはら台 ・地域包括支援センタートータス ・市原市福祉総合相談センター <p>【第2部】意見交換会 「見守り活動について語り合おう～コロナ禍における今後の見守り活動～」</p>

成果	昨年度同様、対面での活動が難しい状況で、様々なコミュニケーションツールを活用しながら継続的な見守り活動が実施された。交流会では、活動上、各訪問員が有益となる支援方法などの意見交換が行われ、活動の視点等を再認識する機会となった。また、意見交換会のシートやアンケート結果を活用し、各ネットワークにおいては後の安心訪問員のフォローアップ研修の実施に繋がった。
課題・方向性	各訪問員の活動に差異があるため、今後は、活動事例を活用しながら活動の視点を考える機会となるような交流会を実施したい。また、アンケートから安心訪問員の活動範囲について不安視する意見もあったことから、訪問員の不安を解消・緩和し、安心して活動に取り組んでいただけるような支援に努めていきたい。

⑤地域福祉支援事業

歳末たすけあい運動の財源を活用し、歳末の時期に地区社協や小域福祉ネットワークが行う先駆的な地域福祉活動の普及促進に向けた助成を行った。

内容	事業実績(R4 度)	R3 年度	前年度比較
地域福祉支援事業	導入型：320,000 円 (8 団体) 交流型：560,000 円 (10 団体) 個別（訪問）支援型：530,000 円 (9 団体) 合 計：1,410,000 円 (27 団体)	1,050,000 円	360,000 円

⑥地域主体の子どもの見守り強化事業

ちはら台地区をモデル地区に、満2歳から学齢前の未就学児を養育している家庭に対し、地域の協力者による戸別訪問などを通じ、子どもや家庭の状況を地域でゆるやかに見守る活動を実施した。

地区	延活動者数	訪問家庭数	延訪問回数
ちはら台地区	364 名	33 世帯	189 回

成果	戸別訪問により、対象未就学児の状況を確認することができた。また、対象家庭に地域イベントやサロン活動を周知することで、地域と子育て世帯の交流が生まれ、地域で主体的・継続的に子どもを見守る気運が高まった。
課題・方向性	子育て世帯に対し、孤立感や孤独感を抱かせない取組みを継続するとともに、地域全体で子どもをゆるやかに見守る体制の構築に取り組む。

(2) 生活を支えるための体制の強化

①生活支援体制整備事業の推進

高齢者を地域全体で支える「地域包括ケアシステム」の構築に向け、その調整役を担う「第1層、第2層生活支援コーディネーター（SC）」と地区社協圏域の「第2層協議体」との連携・協働による「生活支援サービス等」の仕組みづくりに向けた検討に努めた。

<第2層協議体・SC活動実績>

	取り組み項目	辰巳台	市津	ちはら台	国分寺台	姉崎	有秋	三和	南総	加茂	五井	市原
地域アセスメント	地域資源把握 (資源調査・一覧更新)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	生活課題・ニーズ把握 (アンケート調査等)		○					○		○		○
	生活課題・ニーズ把握 (個別ケースの検討等)				○	○			○		○	○
地域で必要な仕組みづくり	見守りから生活支援 (緩やかな見守り体制構築)	○			○				○	○	○	○
	資源マッチング (マッチング会議、便利帳等)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	住民互助の生活支援 (ゴミ出し、買い物、屋内 外支援、移動等)		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	交流の場から生活支援 (居場所等での生活支援)					○						
担い手の育成	高齢者の活躍の場づくり (生活支援活動等の検討)	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	活動支援者の意識調査、 養成研修、説明会開催等	○	○	○			○					

	新型コロナウイルス特例貸付 (緊急小口資金、総合支援資金)	1,881 件	1,741 件	1,612 件	618,190,000 円
	合計	2,119 件	1,971 件	1,828 件	698,505,000 円
前年度比較増減		△1,567 件	△1,026 件	△605 件	△9,937,900 円

※令和4年度「不動産担保型生活資金」の申請件数だけ「1」の理由は、前年度の繰越分であるため。
 ※新型コロナウイルス特例貸付事業の相談件数は、特例貸付の申込に係る来局総回数を計上。

(イ) 療養資金貸付事業 (市受託事業)

高額な療養費の支払いが困難な世帯に対し、療養費の支払いに必要な資金の貸付を実施した。

【貸付状況】

年度	相談件数	申請		貸付	
		件数	金額	件数	金額
R4 年度	3 件	3 件	1,608,000 円	3 件	1,608,000 円
R3 年度	5 件	0 件	0 円	0 件	0 円
増減	△2 件	3 件	1,608,000 円	3 件	1,608,000 円

(ウ) 福祉資金貸付事業 (自主事業)

市内に居住する低所得世帯を対象に、生活の安定や自立更生に向けた必要な助言指導を行うとともに、生活のつなぎ及び応急的な生活資金の貸付を実施した。

年度	資金種類	相談件数	申請件数	貸付	
				件数	金額
R4 年度	応急生活費	9 件	3 件	3 件	45,000 円
R3 年度	応急生活費	9 件	4 件	4 件	57,000 円
前年度比較増減		0 件	△1 件	△1 件	△12,000 円

(エ) 応急法外援護

低所得で不測の事態に陥り、緊急な法外援護が必要な方に対し少額の資金を交付した。

R4 年度		R3 年度		前年度比較増減	
件数	金額	件数	金額	件数	金額
100 件	296,000 円	147 件	424,100 円	△47 件	△128,100 円

成果	新型感染症などを理由とする経済的な課題を抱える世帯に対し、家計の改善や生活の安定に向けた公的給付への繋ぎなど、必要な生活資金の貸付を行うことで、世帯の自立に向けた一助を担えた。市社協の「いちほらフードネット」と連携したことで、金銭に頼らない現物給付など支援の幅を拡充することができた。
課題・方向性	資金貸付が一時的(応急的)な援助に留まり、解決に至らず再相談される方もいることから初期相談から主訴を見極め、必要に応じ適切な専門機関等と連携した支援の強化が必要である。また、令和5年度より新型感染症を理由に資金貸付した世帯を対象に、債権管理事業が新たに展開され、当該世帯の生活再建に向けた働きかけが期待されることから、従来以上に他機関との連携を密にし、再建支援に努めていく。

③日常生活支援事業

公的制度や民間サービスで補えない住民の日常生活上の生活課題を解決するために、住民相互による支え合い・助け合いの活動を行った。

(ア) 住民参加型在宅福祉サービス

日常生活上のちょっとした困りごとの解決に取り組む住民相互の生活支援サービス等の個別支援活動を行った。

地区	開設日数	延利用者数	延支援者数	内容等
辰巳台	362日	1,430名	1,458名	地区内に居住する高齢者や障がい者、その他日常生活に手助けを必要とする人たちに対して、日常支援、子育て支援等の有償サービスを提供。 【名称：たすけあい辰巳ねこの手】
ちはら台	149日	149名	156名	地区内に居住する日常生活に手助けを必要とする人たちに対して、家事支援、付添支援等の有償サービスを提供。 【名称：たすけあい隊】
三和	308日	180名	468名	地区内に居住する一人暮らし高齢者や高齢者世帯、障がい者世帯に対して、家事作業、屋外作業等の有償サービスを提供。 【名称：たすけあい三和】
有秋	444日	198名	583名	地区内の一部町会にて、一人暮らし高齢者や高齢者世帯、障がい者世帯に対して、家事作業、屋外作業等の有償サービスを提供。今後地区内に活動を広めていく。 【名称：くらしのささえあい】
市津	348日	135名	408名	地区内に居住する一人暮らし高齢者や高齢者世帯、障がい者世帯をに対して、家事作業、屋外作業等の有償サービスを提供。 【名称：市津 まごの手】
国分寺台	—	—	—	地区内に居住する高齢者世帯や生活困窮者等で、各関係団体より支援依頼があった人に対して、屋内外の有償サービスを提供。※令和4年12月事業化、令和5年4月～開始

年度	実施地区	開設日数	延利用者数	延支援者数
R4年度	6地区	1,611日	2,092名	3,073名
R3年度	6地区	814日	1,332名	2,235名
増減	—	797日	760名	838名

(イ) 事業化・活性化推進サービス

住民参加型在宅福祉サービスにつなげるための取り掛かりとして部分的に支援する活動を行った。

地区	開設日数	延利用者数	延支援者数	内容等
辰巳台	24日	187名	24名	高齢者を主な対象として、社会福祉施設（辰巳萬緑苑）の協力を得て月2回買い物ツアーを実施。
市津	24日	394名	140名	65歳以上の一人暮らし高齢者、65歳以上で構成される世帯、自力での買い物に困難を抱える方を対象として、社会福祉施設（清流園、グリーンホーム）の協力を得て月2回買い物ツアーを実施。
有秋	19日	255名	68名	65歳以上の一人暮らし高齢者、障がい者で自力での買い物に困難を抱える方を対象として、社会福祉施設（グランモア和光苑）の協力を得て月1回買い物ツアーを実施。
三和	20日	84名	43名	光風台地域で70歳以上の高齢者のみの世帯を対象として、社会福祉施設（向日葵）の協力を得て買い物ツアーを実施。

年度	実施地区	開設日数	延利用者数	延支援者数
R4年度	4地区	87日	920名	275名
R3年度	3地区	42日	549名	136名
増減	—	45日	371名	139名

(ウ) 日常生活支援事業交流会

日常生活支援事業実践者同士の交流や情報交換の場を提供することで、顔の見える関係づくりを促進するとともに、未実施地区における取組の契機になることを目的に下記の通り実施した。

期日	11月4日(金)
場所	ウエルシア・コミュニケーションセンターいちほら 多目的室1・2
参加者	日常生活支援事業協力会委員、地区社会福祉協議会関係者、日常生活支援事業に関心のある方(43名)
内容	【第1部】実践発表 ・三和地区社協「たすけあい三和の取組みについて」 ・姉崎地区社協「日常生活支援事業の実現に向けて」 【第2部】情報交換会 「日常生活支援事業について語り合おう」
成果	公的制度で対応できない制度の狭間のニーズに対応する日常生活支援事業の取組みの活性化に向け、関係者間の交流会を開催した。成功事例や諸課題などを共有し意見交換することで、新たな取組みに関する視点の発見や実践者の意識醸成が図れ、新たに国分寺台地区での事業化に繋がった。
課題・方向性	市内全域での取組みの拡充を目指し、地区担当職員を通じ地域ニーズ等の把握に努めるとともに、未実施地域での事業化に向け地域関係者等への積極的な働き掛けや企画提案を行っていく。

④ファミリー・サポート・センター事業

公的な子育てサービスで対応できない短時間の預かり等、住民相互(協力会員、利用会員)による援助活動を通じた子育て環境(仕事と育児の両立)を支援するため、いちほらファミリー・サポート・センター事業を実施した。

年度	相談件数(延数)	利用会員登録者数	協力会員登録者数	両方会員登録者数
R4年度	68件	273名	69名	29名
R3年度	75件	326名	65名	29名
増減	△7件	△53名	4名	0名

【活動状況】

(令和5年3月31日現在)

活動内容	月												R4度	R3度	増減
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
保育所・幼稚園の登園前の預かり	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件	1件	△1件
保育所・幼稚園の送り	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件	82件	△82件
保育所・幼稚園の迎え	0	0	0	2	0	3	0	0	0	0	9	10	24件	95件	△71件
保育所・幼稚園の帰宅後の預かり	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件	6件	△6件
学童の放課後の預かり	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4件	2件	2件
放課後児童クラブの迎え	0	0	0	1	0	1	1	0	0	1	0	0	4件	23件	△19件
放課後児童クラブ終了後の預かり	0	0	0	1	0	1	1	0	0	1	0	0	4件	7件	△3件
子どもの習い事等の場合の援助	31	25	26	21	15	32	30	24	19	25	20	22	290件	234件	56件
保育所・学校等休み時の援助	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2件	3件	△1件
保育所等入所前の援助	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件	0件	0件
保護者等の短時間・臨時的就労の場合の援助	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件	0件	0件

保護者等の求職活動中の援助	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3件	0件	3件
保護者等の冠婚葬祭による外出、他の子どもの学校行事の場合の援助	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4件	0件	△4件
保護者等の外出の場合の援助	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	4件	10件	△6件
保護者等の病気、その他急用の場合の援助	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1件	1件	0件
その他	7	3	5	6	0	0	3	3	3	4	6	3	43件	13件	△30件
小学校登校前の預かり	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件	7件	△7件
合計	39	45	49	37	20	43	55	79	45	25	17	30	383件	484件	△101件

成果	継続的に利用する会員の支援が減り、昨年より支援件数の合計は減少したが、新型コロナウイルスの行動制限も段階的に緩和され、事業の活性化に向けた会員相互の研修の企画実施、広報用のPR動画を作成し情報発信に努めた。
課題・方向性	地区により協力会員数に偏りがあるため、利用会員からのニーズに応えきれていない。SNSや、広報用動画を用い、幅広い年齢層の方へ事業周知と協力会員募集を行っていく。

⑤出産前後家事等サポート事業

妊娠中や出産前後の不安定な時期に、家事または育児支援等を必要とする家庭に、ホームヘルパーを派遣し、子育てしやすい環境づくりに向けたコーディネート業務を展開した。

年度	相談件数（延数）	利用者数（実人数）	利用回数（延数）	利用時間（延時間）
R4年度	41件	66名	155回	309時間
R3年度	41件	78名	242回	452時間
増減	0件	△12名	△87回	△143時間

【活動状況】

(令和5年3月31日現在)

活動内容	月												R4年度	R3年度	増減	
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
家事援助	食事の準備・後片付け	19	3	9	14	12	9	7	8	11	13	9	9	123件	199件	△76件
	衣類の洗濯・補修	6	1	0	3	2	1	3	1	4	6	3	2	32件	77件	△45件
	居室等の掃除・整理整頓	18	2	2	9	13	11	8	13	14	11	4	7	112件	161件	△49件
	生活必需品の買い物	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1件	6件	△5件
	関係機関との連絡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件	1件	△1件
	その他必要な家事援助	0	0	0	1	1	3	0	0	4	0	0	0	9件	14件	△5件
	小計	43	6	11	27	28	25	18	22	33	30	16	18	277件	458件	△181件
育児援助	授乳	0	0	0	0	0	4	0	1	0	1	1	1	8件	8件	0件
	おむつ交換	1	0	1	0	1	2	0	0	3	5	0	1	14件	31件	△17件
	沐浴介助	0	0	1	3	1	3	0	0	0	0	0	0	8件	20件	△12件
	適切な育児環境の整備	0	0	1	0	0	0	1	0	2	5	0	0	9件	9件	0件
	その他必要な育児援助等	4	1	0	0	0	4	0	1	2	3	1	1	17件	41件	△24件
	小計	5	1	3	3	2	13	1	2	7	14	2	3	56件	109件	△53件
合計	48	7	14	30	30	38	19	24	40	44	18	21	333件	567件	△234件	

成果	前年度より活動件数は減少したが、新型コロナウイルスにより引きこもりがちになり育児不安を抱える家庭もあり、コーディネーターを中心に市ネウボラセンター、市子ども福祉課との連携により、利用世帯に寄添った支援を行うことができた。ニーズが回復してきたように思える。また、市内産婦人科や関連機関に働きかけ、事業案内の周知に努めた。
課題・方向性	事業者の確保やヘルパーの不足により、南部地域で支援できないケースもあることから市担当課と連携し新規協力事業者の開拓に取り組んでいく。また、市内全域で同水準の支援が提供できるよう事業所間の情報共有が図れる意見交換会の実施も検討していく必要がある。

⑥送迎ボランティアサービス事業

既存の交通手段での移動が困難な高齢者及び障がい者（児）等に対し、住民参加の相互援助による外出支援を行ない、社会参加の促進と地域福祉の推進を図った。

(ア) 実施状況

- ・利用者 197世帯 212名（令和5年3月31日現在登録者）
- ・協力ボランティア 38名（ 〃 ）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	R4年度	R3年度	増減	
延利用件数	23	19	23	28	30	19	28	19	25	20	27	27	288件	215件	73件	
目的別利用件数	福祉施設利用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件	0件	0件	
	公共機関利用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件	0件	0件	
	行事への参加	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件	0件	0件	
	通院	23	19	23	28	29	19	28	19	25	20	27	27	287件	214件	73件
	その他	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1件	1件	0件

(イ) 送迎ボランティア養成講座

送迎ボランティアサービス事業協力者を育成することを目的として実施。

期 日	10月24日（月）
場 所	市原市社会福祉協議会 3階会議室
参加者	一般市民16名
内 容	<p>【説明】送迎ボランティアサービス事業について 説明：市原市社会福祉協議会職員</p> <p>【講義】安全運転の心得 講師：一般社団法人日本自動車連盟千葉支部 谷 宗一郎 氏</p> <p>【体験談及び交流】 送迎ボランティア協力者との交流</p>

(ウ) 送迎ボランティア研修会

送迎ボランティアサービス事業を行うにあたり、協力者の活動をよりスムーズに行えるよう資質向上を目指すことを目的として実施。

期 日	1月20日（金）
場 所	市原市社会福祉協議会 3階会議室
参加者	送迎ボランティアサービス事業協力会員 12名
内 容	<p>【講義】「より安全運転をするために」 講師：市原警察署 交通課 庶務係 新井 史子 氏</p> <p>【情報交換】 「協力者間の交流会」</p>

成 果	送迎車両の配車場所の一つである姉崎地区の地区社協と連携し養成講座を開催したことで、姉崎地区の住民を中心に16名の参加を得られた。その結果、今年度は養成講座及び事業のPRで新規協力者7名の確保に繋がり、288件の支援を実施することができた。また、車両の老朽化に伴う代替えについて市へ要望し実現に繋がった。
課題・方向性	引き続き、事業PRを強化するとともに、地区社協やネットワーク等と連携した養成講座の開催など検討し、新規協力者の確保に繋げたい。

⑦福祉カー貸出事業

心身障がい者(児)、高齢者等の社会参加の促進と福祉の向上を図るため、障がい者、高齢者等及びその家族並びに社会福祉施設等に対し、リフト付きワゴン車の貸出を実施した。

(ア) 利用件数

項 目	月	利用 状況	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	R4年度	R3年度	増減
			心身障がい者(児) 及びその家族	件数	2	3	1	3	1	3	3	3	2	5	3	2	31件
	日数	3	3	1	3	1	3	3	3	2	6	3	2	33日	16日	17日	
高齢者及びその家族	件数	0	0	1	2	2	0	0	0	0	0	0	1	6件	3件	3件	
	日数	0	0	1	7	4	0	0	0	0	0	0	4	16日	8日	8日	
社会福祉団体及び 社会福祉施設	件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件	1件	△1件	
	日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0日	1日	△1日	
社会福祉 ボランティア	件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件	0件	0件	
	日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件	0日	0日	
合 計	件数	2	3	2	5	3	3	3	3	2	5	3	3	37件	16件	22件	
	日数	3	3	2	10	5	3	3	3	2	6	3	6	49日	25日	25日	

(イ) 利用内容

項 目	内 容	利用 状況	旅行等	買物等	通院等	行事等	その他	合 計
心身障がい者(児)及びその家族	件数	0件	0件	30件	1件	0件	31件	
	日数	0日	0日	32日	1日	0日	33日	
高齢者及びその家族	件数	0件	0件	5件	1件	0件	6件	
	日数	0日	0日	12日	4日	0日	16日	
社会福祉団体及び社会福祉施設	件数	0件	0件	0件	0件	0件	0件	
	日数	0日	0日	0日	0日	0日	0日	
社会福祉ボランティア	件数	0件	0件	0件	0件	0件	0件	
	日数	0日	0日	0日	0日	0日	0日	
合 計	件数	0件	0件	35件	2件	0件	37件	
	日数	0日	0日	44日	4日	0日	49日	

成 果	市担当課と連携し、利用促進に向けた調整を行った。昨年度より利用件数が増加し、新規利用者も増加した。
課題・方向性	新型コロナウイルスの影響も落ち着き、年間の利用件数が昨年度より増加した。引き続き、市担当課と連携した広報活動に努め利用促進を図る。

⑧居宅介護支援事業所の運営

介護保険で要介護と認定された高齢者等に対し、サービス提供事業者、介護保険施設、関係行政機関等と連携を図りながらケアプランを作成し、自立した生活を支援した。

【ケアプラン作成状況】

年度 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	延利用者数	月平均
R4 度利用者	104	104	102	93	95	94	91	90	93	86	91	92	1,135 名	94 名
R3 度利用者	110	110	107	104	99	110	111	114	104	112	101	96	1,278 名	106 名
増 減	△6	△6	△5	△11	△4	△16	△20	△24	△11	△26	△10	△4	△143 名	△12 名

(ア) 介護予防給付ケアマネジメント業務（受託事業）

市原市内の地域包括支援センターから委託を受け、介護保険で要支援と認定された高齢者等に対し、サービス提供事業者、介護保険施設、関係行政機関等と連携を図りながらケアプランを作成し、自立した生活を支援した。

【ケアプラン作成状況】

年度 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	延利用者数	月平均
R4 度利用者	24	26	26	21	19	18	18	17	16	16	17	17	235 名	19 名
R3 度利用者	17	17	20	20	20	21	23	25	23	23	25	26	260 名	21 名
増 減	7	9	6	1	△1	△3	△5	△8	△7	△7	△8	△9	△25 名	△2 名

(イ) 要介護認定調査業務（受託業務）

市原市及び他市町村からの委託を受け、介護保険要介護・要支援認定に係る調査業務を行った。

【認定調査状況】

年度 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	延利用者数	月平均
R4 度利用者	11	7	4	4	1	8	5	5	4	4	6	8	67 名	5 名
R3 度利用者	1	0	3	2	3	4	5	6	6	8	5	9	52 名	4 名
増 減	10	7	1	2	△2	4	0	△1	△2	△4	1	△1	15 名	1 名

成 果	新型感染症の感染等に不安を抱える利用者も多く、身体的・精神的なフォローを十分に行いながら、継続的にサービスが利用出来るよう支援にあたった。また、複合的な課題を抱えている利用者（世帯）へ、行政や包括支援センター、地区担当職員や他の分野とも連携を図り課題解決に向け支援にあたった。
課題・方向性	複合的な課題を抱えている利用者が増加していることから、他の分野と課題解決に向け連携を図るとともに、利用者の自立に向けた生活の援助に努めるとともに、安定的、継続的な事業運営に向けた人材確保と育成に力を入れていく。

2. 地域福祉力の向上

(1) 地区行動計画の推進

①地区行動計画推進委員会の開催

「第6次市原市地域福祉活動計画」(令和3年9月策定)における地域共生社会の実現を着実に推進するため、11地区社協単位(中域福祉圏域)の「地区行動計画推進委員会」にて「地区行動計画」(平成29年～平成30年度策定)の評価・検証を踏まえた見直しに着手し、第6次活動計画の目標や重点施策を共有した「第2次地区行動計画」を新たに策定した。

地区名	名称	設置日	R4年度開催回数
姉崎地区	姉崎地区福祉行動計画推進委員会	平成31年1月22日	2回
五井地区	五井地区行動計画推進委員会	平成30年12月12日	1回
市原地区	市原地区行動計画推進委員会 (市原地区第2層協議体)	平成31年3月14日	3回
辰巳台地区	辰巳台地区行動計画推進委員会 (辰巳台地区第2層協議体)	平成30年12月8日	3回
市津地区	市津地区地域福祉行動計画推進委員会 (市津地区第2層協議体)	平成30年11月19日	4回
三和地区	三和地区行動計画推進委員会	平成31年2月19日	4回
南総地区	南総地区行動計画推進委員会 (南総台地区第2層協議体)	平成30年11月25日	4回
加茂地区	加茂地区社協役員会・理事会 (地区行動計画推進委員会機能を担う)	平成31年2月24日	3回
有秋地区	有秋地区行動計画推進委員会 (有秋地区第2層協議体)	平成30年4月20日	4回
ちはら台地区	ちはら台地区福祉行動計画推進委員会	平成30年9月30日	4回
国分寺台地区	支え合いのまちづくり計画推進委員会 (国分寺台地区第2層協議体)	平成31年1月20日	3回

※「第2層協議体」と機能が混在していることもあり、地区によっては委員を兼務し、両会議を一体的に開催、運営した。(姉崎、五井、三和、加茂、ちはら台地区は推進委員会単独で開催)

成果	地区社協単位の「地区行動計画推進委員会」にて地域共生社会づくりに向けた具体的な取組み方策や事業化に係る議論を重ね、新たに策定した「第2次地区行動計画」に位置付けることで、地域共生社会づくりの実現に大きく一歩前進することができた。
課題・方向性	地区行動計画の取組みを着実に推進するため、引き続き「地区行動計画推進委員会」において定期的な進捗状況や諸課題を共有化し、新規や鈍化傾向にある取組みの具現化に向けた議論を進めるとともに、本会地区担当職員による活性化の支援に努める必要がある。

(2) 社会福祉法人の公益的な取組との連携

市内の社会福祉法人との連携づくりとして、中域福祉圏ごとに設置している「地区行動計画推進委員会」や「第2層協議体」への参画を働き掛け、顔の見える関係づくりに努めた。

法人分野	アプローチ法人数	会議への参回数
高齢者施設	17法人	16回延21法人

地域で安心して幸せに暮らすための基盤づくり【共生】

1. 地域で活躍する人材の育成

(1) 福祉教育の推進

学校や団体等と連携し、次世代の福祉マインドの醸成や生涯学習のための福祉教育（ボランティア学習）の推進を図るため以下の講座を実施した。

①出前講座

市民に対する福祉教育(生涯学習)の一環とし、市内の学校・機関・企業等からの要請に応じて講座を開催した。

年度	学校関係	公共機関等	福祉施設、団体等	合計
R4 年度	5 回	1 回	1 回	7 回
R3 年度	1 回	3 回	0 回	4 回
増減	4 回	△2 回	1 回	3 回

成果	新型コロナウイルスにおける行動制限が段階的に緩和されたことで、学校からの依頼が少しずつ増加し講座を充実させるため、千葉市で福祉教育を実施するボランティアグループ「てとてん」と連携した視覚障がい者アイマスク疑似体験を取り入れた講座の企画実施をすることができた。
課題・方向性	引き続き、ボランティアグループ「てとてん」と連携し、福祉教育メニューを増やしていくとともに、地域共生社会づくりに向け多様な主体が地域で活躍できるきっかけに繋がるよう、企業等へアプローチした講座の拡充に努めていきたい。

(2) ボランティア活動の推進

①ボランティア活動に関する相談・コーディネート

(ア) ボランティア相談受付、コーディネート

ボランティア活動を行う（行われている）方々、施設・団体などからの活動相談、活動紹介、派遣依頼などのコーディネートを行った。

相談内容	R4 年度	R3 年度	増減
活動希望、活動中の問題に関すること	61 件	35 件	26 件
派遣依頼に関すること	58 件	36 件	22 件
その他	55 件	44 件	11 件
合 計	174 件	115 件	59 件

(イ) 登録者（団体）の活動実績

ボランティアグループ			
	R4 年度	R3 年度	増減
活動回数	10,278 回	5,873 回	4,405 回
延参加人数	46,260 名	45,898 名	362 名

個人ボランティア			
	R4 年度	R3 年度	増減
延参加人数	1,753 名	1,839 名	△86 名

災害ボランティア			
	R4 年度	R3 年度	増減
活動回数	95 回	13 回	82 回

依頼に対する活動状況			
	R4 年度	R3 年度	増減
件 数	8 件	0 件	8 件
延参加人数	30 名	0 名	30 名

成果	新型コロナウイルスにおける行動制限が段階的に緩和されたことでボランティア活動も徐々に再開の傾向にあり、ボランティアグループの活動は昨年度より 4,405 回増えた。また、新型コロナウイルスの影響により受け入れ先が限定される中、地区担当者や連携し、地域での活動に結びつけることができた。
課題・方向性	福祉施設等を中心に活動している団体や個人の方の活動意欲低下が見受けられるため、引き続き地区担当者や連携し、身近で活動できる場の拡充など図っていく。

② ボランティア活動に関する情報提供

社協ホームページや SNS、ボランティア情報ステーション（市原市社会福祉協議会、市原市姉崎保健福祉センター、市原市三和保健福祉センター、市原市南部保健福祉センター、老人福祉センターに設置）等で市内・外のボランティア活動情報等について、市民へ情報提供を行った。

成果	ホームページや SNS (フェイスブック、ツイッター、LINE) を活用し、広く市民に最新情報を提供できた。また、地域情報誌なども活用し講座等の情報発信を強化することで、講座への参加や活動のマッチングに繋げることができた。
課題・方向性	SNS (フェイスブック、ツイッター、LINE) を活用し活動に係るタイムリーな情報発信を積極的に行っていくとともに、事業毎に開催報告を行い、次の参加に繋げていく。

③ ボランティア活動への支援

ボランティア活動の継続性の向上や活性化のため以下の活動支援を行った。

(ア) ボランティア登録数

ボランティアグループ

年度	登録団体数	登録者数
R4 年度	166 団体	3,733 名
R3 年度	170 団体	4,058 名
増 減	△4 団体	△325 名

個人ボランティア

年度	登録者数
R4 年度	133 名
R3 年度	132 名
増 減	1 名

災害ボランティア

年度	登録者数
R4 年度	95 名
R3 年度	80 名
増 減	15 名

(イ) ボランティア連絡協議会の事務局

活動者間の横の繋がりや連携づくり機会を提供するため、市原市ボランティア連絡協議会の事務局を担い協議会活動の支援を行った。

事業名	期日	会場	主な内容
総 会（書面・リモート）	5 月 21 日	市原市姉崎保健福祉センター	・令和 3 年度事業報告(案)について ・令和 3 年度決算報告(案)・監査報告について ・令和 4 年度事業計画(案)について ・令和 4 年度予算(案)について ・規約の一部変更について
郷土料理・房総太巻き寿司教室	5 月 24 日	市原市立五井公民館	講師：いちはら食育の会
会員交流会	5 月 31 日	市原市農業センター	会員相互の交流
役員・E S 委員親睦会	6 月 23 日	竹・いろりの里	会員相互の親睦
講演会	11 月 9 日	市原市市民会館	【講演】「世代を繋ぐ多様なかたち」 講師：井前 省吾 氏
レコード音楽会	11 月 18 日	市原市姉崎保健福祉センター	講師：石川 英明 氏
会員交流クリスマス会	12 月 18 日	市原市立五井公民館	会員相互の交流
バス研修	2 月 24 日		会員相互の交流
パソコン・ZOOM 教室	年 6 回	市原市立五井公民館	情報共有を図るための勉強会
フリートークワークショップ	年 4 回	市原市立五井公民館	会員相互の活動情報交換
会報発行	年 2 回		「いちはらV連協だより」第 33 号（6 月）・第 34 号（12 月）広報活動
Wifi 貸出	通年		利用件数：63 件
V 連協運営事業			市原市V連協の運営に関すること ・役員会 ・監査 ・その他打合せ

※新型コロナウイルスで中止した事業：夏休み親子体験教室

成果	ボランティアグループの活動場所の確保及び拡充を図るため、関係機関と連携し活動支援にあたった。また、新型コロナウイルスの影響で活動が停滞しているボランティアも多いため、ボランティアセンターで企画した「日常生活支援事業担い手養成講座」の参加案内を行うことで登録ボランティアから 21 名が参加した。講座を通じ新たな活動に繋がる情報の提供を行った。
課題・方向性	昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響により活動停滞や存続の危機に直面する団体も見受けられるため、情報提供を積極的に行うとともに、本会地区担当職員と連携し新たな活動場所の確保及びコーディネートの強化を図る。

④ボランティアの養成

地域が抱える課題について、様々な機会を捉えて情報の収集を行うとともに、社会や地域ニーズに応じた人材の育成を図るための講座等を開催した。

(ア) 傾聴ボランティア養成講座

相手の心に寄り添って話を聴くことの大切さや、心と耳を傾けて話を聴くために必要な知識と技術を学び、それを活かし活動できる傾聴ボランティアの養成を図ることを目的として実施した。

期日	3月4日(土)、11日(土)、18日(土) [全3回]
場所	市原市社会福祉協議会 3階会議室
参加者	延 91 名
内容	<p>【講義及び演習】「傾聴ボランティアについて」 講師：東京情報大学 総合情報学部 嘱託教授 田邊 昭雄 氏</p> <p>【活動紹介】 発表者：傾聴の会ひだまり、傾聴の友やすらぎ、傾聴の会こだま</p>

(協力：傾聴の会ひだまり・傾聴の友やすらぎ・傾聴の会こだま)

(イ) 日常生活支援事業担い手養成講座

公的な福祉サービスでは対応できない地域住民が抱える日常生活上のちょっとした困りごと(例：足腰が弱く電球交換が困難、庭木の手入れが難しいなど)を住民同士で解決し合う生活支援活動の全市的な拡充を図るため、新たな支援者の掘り起こしと活躍できる場づくりを目的に実施した。

期日	2月22日(水)
場所	ウエルシア・コミュニケーションセンターいちほら 2階多目的室
参加者	43 名
内容	<p>【講演】「スマイルサービスについて」 講師：ユーカリが丘地区社会福祉協議会 スマイルサービス事業部 部長 阿部 多加子 氏、コーディネーター 玉置 淑恵 氏</p> <p>【協力会員体験談】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たすけあい辰巳ねこの手 岡村 弘孝 氏 ・ちはら台地区社会福祉協議会「たすけあい隊」 木内 和子 氏 ・有秋地区社会福祉協議会「くらしのささえあい」 八木 昭夫 氏 <p>【活動紹介】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三和地区社会福祉協議会「たすけあい三和」 ・市津地区社会福祉協議会「市津まごの手」 ・たすけあい辰巳ねこの手 ・ちはら台地区社会福祉協議会「たすけあい隊」 ・有秋地区社会福祉協議会「くらしのささえあい」 ・国分寺台地区社会福祉協議会

成果	「日常生活支援事業担い手養成講座」では、ボランティアセンターに登録するボランティアへ声掛けし 21 名の参加に繋がった。また、既存の事業実施地区のみならず市内全域から多数の市民が参加したことで、未実施地区への拡充を図る大きな一歩となった。
課題・方向性	「日常生活支援事業担い手養成講座」では、受講者が活躍できるよう積極的な活動マッチングを行うとともに、未実施地区での事業化に向けた働きかけを本会地区担当職員と連携し進めたい。その他に、引き続き地域関連団体等と連携し地域の福祉課題・ニーズ把握を行いながら新規講座の企画実施に努めていく。

(3) 人材育成事業

地域特性に応じた地域福祉活動の充実を図るための、新たな担い手の発掘、確保に取り組んだ。

地区	開催日数	参加者数	支援者数	内容
辰巳台	1日	29名	10名	辰巳台地区の地域福祉に携わる団体を対象に、第2期辰巳台地区行動計画の説明会を実施し、計画内容の共有を図った。
市津	2日	48名	5名	地域住民を対象に日常生活支援事業の説明会を実施。また、支援会員向けの勉強会を行い、活動上の留意点等の情報共有を行った。
有秋	1日	58名	9名	地域住民を対象に地域福祉講演会を実施した。有秋地区における地域共生社会の在り方について共有化を図った。
ちはら台	1日	67名	22名	地域住民を対象とする集いを開催し、地区社協の事業紹介やボランティア活動紹介、活動者の募集案内を行った。
国分寺台	2日	9名	5名	地域住民を対象に、児童の安全を守るため、日常に潜む危険への予防や見極める力を養う「体験型安全教育講座」を専門機関を招き実施。

年度	開催地区	開催日数	参加者数	支援者数
R4年度	5地区	7日	211名	46名
R3年度	4地区	7日	83名	39名
増減	1地区	—	128名	7名

成果	5地区で地域関係者の協力により地域福祉活動の説明会等を実施し200名以上の住民が参加し、地域福祉活動への理解を深め活動へのきっかけづくりとなった。本会ボランティアセンターが地区社協と連携し日常生活支援事業の担い手養成講座を実施したことで、既に日常生活支援事業に取り組む地区では新たな人材の確保に繋がった。
課題・方向性	役員の後継者不足、担い手不足が全地区共通の喫緊の課題として、今後も、地区の特性に応じた生活課題の解決に資する事業の展開に必要な人材の確保に向け、地区社協と市社協とが連携・協働しながら人材を育成・確保するための事業展開を図る。

2. 権利擁護の推進

(1) 市原市成年後見支援センターの設置・機能の充実

市原市より成年後見支援センター運営を受託し、成年後見支援制度利用が必要な方に適切に届くよう、制度普及、「相談・支援」、「法人後見受任」活動を実施した。中核機関として制度利用促進を図るため、司法、福祉、関係機関、地域住民からなる「協議会」を開催し、地域連携ネットワークの構築を検討した。また、後見制度と両輪とされている福祉サービス利用援助事業の拡充を図った。

①成年後見制度相談事業（市原市委託事業）

【対応実績】新規相談・支援総数

区分	高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他	合計	R3年度	増減
支援総数 (新規相談件数)	1,509件 (213件)	96件 (18件)	142件 (22件)	138件 (13件)	1,885件 (266件)	1,549件 (269件)	336件 (▲3件)

(ア) 相談手段別支援内訳

区分	高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他	合計	R3年度	増減
電話	1,063件	57件	87件	78件	1,285件	1,092件	193件
郵便・メール	67件	7件	6件	8件	88件	38件	50件

訪問	221件	17件	25件	36件	299件	234件	65件
来局	127件	13件	19件	12件	171件	146件	25件
調整会議	20件	1件	3件	4件	28件	35件	▲7件
ケース会議	11件	1件	2件	0件	14件	3件	11件
その他	0件	0件	0件	0件	0件	1件	▲1件
合 計	1,509件	96件	142件	138件	1,885件	1,549件	336件

(イ) 相談内容別支援内訳

区分	高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他	合計	R3年度	増減
法定後見	113件	15件	4件	8件	140件	179件	▲39
任意後見	11件	0件	1件	7件	19件	10件	9件
弁護士相談	30件	3件	5件	3件	41件	43件	▲2件
専門職相談	7件	0件	0件	38件	45件	7件	38件
福祉機関紹介	0件	0件	2件	5件	7件	5件	2件
公証人役場	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
遺言相続	1件	0件	1件	0件	2件	17件	▲15件
事務委任契約	4件	0件	0件	0件	4件	6件	▲2件
虐待など	0件	0件	0件	0件	0件	1件	▲1件
福祉サービス利用援助事業	109件	7件	10件	5件	131件	115件	16件
その他	0件	0件	0件	0件	0件	14件	▲14件
申立支援	491件	30件	41件	31件	593件	621件	▲28件
後見人支援	37件	0件	0件	0件	37件	30件	7件
法人後見	706件	41件	78件	41件	866件	501件	365件
合 計	1,509件	96件	142件	138件	1,885件	1,549件	336件

(ウ) 弁護士による成年後見制度専門相談

【会場：市原市社会福祉協議会（事務局） 時間：午後1時30分～午後4時30分】

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	R3年度	増減
相談者数	3名	4名	4名	1名	3名	2名	3名	3名	3名	3名	2名	3名	34名	31名	3名

【会場：市原市南部保健福祉センター（年2回） 時間：午後1時30分～午後4時30分】

月	6	10	計	R3年度	増減
相談者数	3名	1名	4名	3名	1名

※1…相談者1名あたりの相談時間：60分
 ※2…1日の相談枠数：3名

(エ)「調整会議」の開催

制度利用の可否やケース検討、市長申立について、司法福祉専門職と市関係機関で構成された「調整会議」を実施。

期日	参加者	内容				審議総数	R3 年度	増減
		市長申立	ケース検討	法人後見 受 任	経過報告			
4 月 (開催中止)		0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	5 件	▲5 件
5 月 10 日	15 名	1 件	1 件	0 件	0 件	2 件	3 件	▲1 件
6 月 7 日	11 名	3 件	0 件	0 件	1 件	4 件	6 件	▲2 件
7 月 5 日	9 名	4 件	0 件	0 件	0 件	4 件	2 件	▲2 件
8 月 2 日	10 名	2 件	0 件	0 件	0 件	2 件	4 件	▲2 件
9 月 6 日	11 名	3 件	0 件	1 件	0 件	4 件	4 件	0 件
10 月 4 日	12 名	2 件	1 件	0 件	0 件	3 件	2 件	1 件
11 月 1 日	12 名	2 件	0 件	0 件	0 件	2 件	5 件	▲3 件
12 月 6 日	12 名	2 件	0 件	0 件	0 件	2 件	0 件	2 件
1 月 (開催中止)		0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	1 件	▲1 件
2 月 7 日	11 名	0 件	3 件	0 件	0 件	3 件	1 件	1 件
3 月 7 日	12 名	2 件	0 件	0 件	0 件	2 件	2 件	0 件
合計	115 名	21 件	5 件	1 件	1 件	28 件	35 件	▲7 件

(オ) 広報啓発活動

後見制度概要の広報活動、センター活動普及や講演会を実施。

期日	場所	講演名	参加者
11 月 16 日	ちはら台コミュニティセンター	ちはら台地区見守り支援部会 (フォローアップ研修) 「市原市成年後見支援センターの事業について」	22 名
11 月 22 日	ウェルシア・コミュニケーションセンター	令和 4 年度地域包括支援センターこくぶんじ台出前 講座「市原市成年後見支援センターについて」	9 名
11 月 24 日	アネッサ	令和 4 年度第 2 回中核地域生活支援センター 連絡調整会議 (障害部会) 「市原市成年後見支援センターの事業について」 ～「親なき前」の支援について～	22 名
12 月 4 日	千原厚生園	「成年後見人ゼミ」	23 名
参加人数合計			76 名

(カ)「協議会」の開催

司法・医療・福祉等の地域連携体制を構築し、行政機関、関係機関等及び専門職と意見交換、協議を実施した。

期日	場所	参加者	協議内容
10 月 21 日	事務局	26 名	市原市成年後見支援センターの機能と推進事業について ・センターの機能について ・推進事業について ・令和 3 年度市原市成年後見支援センター活動報告
2 月 13 日	事務局	28 名	市原市成年後見支援センターの機能と推進事業について ・関係機関へのセンター事業周知について ・後見制度利用の必要性の検討、他制度利用の検討シート ・令和 5 年度市民後見人養成講座 (案) について

②法人後見の実施

調整会議において制度利用が適正と承認された方の候補者として、家庭裁判所へ申立をし、後見人等として受任をした。

区分	後見人	保佐人	補助人	受任件数	R3年度	増減
高齢者	4件	3件	1件	8件	4件	4件
知的障がい者	1件	0件	0件	1件	0件	1件
精神障がい者	0件	1件	0件	1件	1件	0件
その他	0件	0件	1件	1件	1件	0件
合計	5件	4件	2件	11件	6件	5件

③福祉サービス利用援助事業（日常生活自立支援事業）

高齢者や障がい者に対し、福祉サービスの利用援助や日常的な金銭管理等の援助を行うことにより、地域での自立した生活を送ることを支援するために、福祉サービス利用援助事業を実施した。

【対応実績】

（ア）新規相談・契約件数

区分	高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他	合計	R3年度	増減
新規相談件数	110件	7件	10件	4件	131件	115件	16件
新規支援・訪問回数	733件	49件	61件	72件	915件	434件	481件
新規契約件数	48件	3件	6件	2件	59件	43件	16件

（イ）契約者訪問・相談支援件数

月	契約者数	訪問支援件数	相談支援件数	支援合計	R3年度	増減
4	90件	165件	246件	411件	432件	▲21件
5	93件	148件	226件	374件	351件	23件
6	96件	169件	293件	462件	375件	87件
7	108件	168件	292件	460件	374件	86件
8	104件	171件	361件	532件	373件	159件
9	108件	157件	292件	449件	373件	76件
10	110件	154件	252件	406件	388件	18件
11	108件	155件	273件	428件	381件	47件
12	110件	162件	259件	421件	391件	30件
1	108件	153件	225件	378件	368件	10件
2	112件	149件	213件	362件	337件	25件
3	118件	163件	279件	442件	435件	7件
合計	1,265件	1,914件	3,211件	5,125件	4,578件	547件

成果	<p>中核機関として機能強化を図り、権利擁護支援の必要な人を発見し、適切な支援につなげる地域連携の仕組みを検討する「協議会」を新たに設置、開設した。また、後見制度の利用にあっては、メリット、デメリットを説明し、親族等が理解をされた上で申立書作成支援を行い、延べ109名の制度利用につなげることができた。</p> <p>福祉サービス利用援助事業の需要が年々増し、新規契約数も伸びており、関係機関と協力・連携を図りながら対応、支援することができた。</p>
課題・方向性	<p>引き続き、広報・啓発活動を通じ、後見制度利用が必要な方に適切に繋げ、本人の意思に沿った制度利用となるよう、本人、地域住民、関係者とチームを組んだ、支援体制の構築を図っていく。</p>

3. 災害対応力の向上

(1) 災害ボランティアセンターの体制強化

「災害ボランティアセンター」の体制強化を図るため、行政や災害支援活動に取り組む関係機関・団体等と連携・協働し下記の取組みを行った。

(2) 災害ボランティアの育成・確保

①災害ボランティア養成講座（基本編）

災害時のボランティア活動や災害ボランティアセンターについて基本的な知識や技術を学ぶとともに、被災後の復興支援に取り組む「災害ボランティア」を養成することを目的として実施した。

期日	9月23日（金・祝）
場所	市原市姉崎保健福祉センター 体育室
参加者	60名
内容	<p>【説明】「災害ボランティアセンターの役割について」 説明：市原市社会福祉協議会職員</p> <p>【講義】「市原市の災害リスク及び災害時の対応について」 講師：市原市役所総務部危機管理課 地域防災マネージャー 主幹 石本 龍一 氏</p> <p>【演習】「災害ボランティア活動のポイント（実践編）」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工具の使い方（のこぎりの使い方） 講師：SaToYaMa よくし隊 ・工具の使い方（くぎ抜きポイント） 講師：千葉土建一般労働組合市原支部 ・ロープワーク（枝のまとめ方） 講師：市原市災害ボランティアネットワーク、 NPO 法人ゆかいな仲間たち、 千葉県災害対策コーディネーター連絡会 ・土のう袋（結び方・積み方のポイント） 講師：(公社) SL 災害救援ボランティアネットワーク千葉県ネット、 (公社) SL 災害救援ボランティアネットワーク市原ネット ・応急手当（止血法） 講師：日本赤十字社千葉県支部 <p>【事務連絡】「市原市災害ボランティア登録制度について」 ⇒25名事前登録</p>

②災害ボランティア養成講座（ステップアップ編）

今後の大規模災害に備えて、災害発生時に迅速・円滑に救援活動が行えるよう、災害ボランティアのリーダーとして活動するために必要な知識を習得し、資質向上を図ることを目的として実施した。

期日	11月27日（日）
場所	市原市姉崎保健福祉センター 体育室
参加者	26名
内容	<p>【講義】「災害ボランティアリーダーとして必要な視点について」</p> <p>【演習】「災害ボランティア活動の図上演習」 講師：公益社団法人 SL 災害ボランティアネットワーク 常務理事 天寺 純香 氏</p>

③市原市自主防災実務者交流会（※NPO 法人ゆかいな仲間たちの主催事業）

市原市自主防災実務者講習会の中で「災害ボランティアセンター」について講義を行った。

期日	7月3日（日）
場所	市原市姉崎保健福祉センター 体育室

④いちほら市民大学専門コース（※市原市の主催事業）

防災コースにて「災害ボランティアセンターの役割」について講義を行った。

期日	12月14日（水）
場所	サンプラザ市原 11階 多目的室2
受講者	11名

⑤市原市総合防災訓練への参加（※市原市の主催事業）

市原市地域防災計画に基づき、発災時における防災関係機関との連携体制の構築、より多くの市民への災害ボランティア活動の意識醸成を目的に参加した。

期日	11月20日（日）
場所	市原市立牛久小学校
内容	災害ボランティアセンター啓発チラシ配布

（3）市原市災害ボランティア活動連絡調整会議の開催

市原市が大規模災害に見舞われたとき、関係機関及び団体が連携し、迅速かつ効果的な支援活動を行えるよう、平常時から災害対策について情報の共有や施策の連携を図ることを目的として、市原市災害ボランティア活動連絡調整会議を実施した。

期日	1回目：6月20日（月） 2回目：9月8日（木） 3回目：12月8日（木） 4回目：3月9日（木）
場所	市原市社会福祉協議会 3階会議室
内容	1回目 ①令和4年度事業計画について （災害ボランティア養成講座【基本編】・【ステップアップ編】、災害ボランティアセンター設置運営訓練） ②構成機関・団体の活動近況報告について 2回目 ①令和4年度事業計画について （災害ボランティア養成講座【基本編】・【ステップアップ編】、災害ボランティアセンター設置運営訓練） ②構成機関・団体の活動近況報告について 3回目 ①令和4年度事業について （災害ボランティア養成講座【基本編】・【ステップアップ編】の開催報告、災害ボランティアセンター設置運営訓練） ②構成機関・団体の活動近況報告について 4回目 ①令和4年度事業について （災害ボランティアセンター設置運営訓練開催報告） ②令和5年度事業について ③構成機関・団体の活動近況報告について

（4）災害ボランティアセンター設置運営訓練の実施

「初動体制マニュアル」及び「災害ボランティアセンター運営マニュアル【改訂版】」に基づき、市原市において大規模災害が発生した場合に迅速に対応するため、災害ボランティアセンターの設置運営を行うとともに、関係団体の協力を得てサテライト災害ボランティアセンターの設置運営訓練を実施した。

期日	2月11日（土・祝）
場所	市原市三和保健福祉センター、市原市三和コミュニティセンター
参加者	111名
内容	「第2次配備からの災害ボランティアセンター設置運営訓練」 協力団体：市原市ボランティア連絡協議会、千葉県災害対策コーディネーター連絡会（公社）SL災害ボランティアネットワーク市原ネット、（公社）SL災害ボランティアネットワーク千葉県ネット、市原市災害ボランティアネットワーク、NPO法人ゆかいな仲間たち、日本赤十字社千葉県支部、千葉土建一般労働組合市原支部、市原市役所危機管理課、市原市役所共生社会推進課

成果	<p>「災害ボランティア養成講座(基本編)」では、新たに災害ボランティアに25名が登録し累計95名が事前登録者となった。また、登録者を対象に新たに「災害ボランティア養成講座(ステップアップ編)」を開催することで、活動リーダーとしての高度なスキルを学ぶとともに活動意識の醸成に繋げることができた。</p> <p>「災害ボランティアセンター設置運営訓練」では、関連諸団体や地区社協や小域福祉ネットワークなどの地域関係者などと協働し、災害ボランティアセンター(サテライト含む)のスタッフを体験してもらうことで、それぞれの役割を再認識するとともに連携体制の強化に努めた。また、行政、関連団体が実施する訓練、講座、講習への参加を通じ、災害ボランティアセンターの講義などを通じた周知活動を行い、マンパワー確保に努めた。</p>
課題・方向性	<p>「災害ボランティア養成講座(ステップアップ編)」の受講者においては、更なるスキルアップに向け、本会が実施する災害ボランティアセンター設置運営訓練でのスタッフ役を体験するなど実体験の機会を設けていきたい。</p> <p>平時から災害時に迅速に対応出来るよう行政と災害ボランティアセンターの設置運営に係る基盤整備の協議を進めるとともに、引き続き、調整会議や訓練等を通じ災害ボランティア活動組織、地域関係者などとの連携・協働体制の構築に努める。</p>

(5) 災害支援ボランティア事業

災害にも強い地域づくりに向けて、地域特性に応じた防災・減災活動(の学習)について計画した。

地区	開催日数	参加者数	支援者数	内容
ちはら台	1日	39名	8名	災害時における行政や市社協の役割について学び、災害発生時、自分、家族、地域の守るため、災害時の支え合い活動について共通理解を図った。
有秋	3日	131名	69名	地区防災計画策定に向けたワークショップを実施し、個人の防災意識の醸成を図るとともに、地区内の被災時の課題を共有した。
三和	2日	42名	18名	災害ボランティア養成講座及びに災害ボランティアセンター設置運営訓練の参加し、サテライトボランティアセンターとしての役割等について理解を深めた。
南総	1日	34名	10名	地域住民を対象とした研修会を開催。市原市危機管理課を講師に「南総地区の災害リスクについて」の講演及び模擬訓練を通じ、災害に対する意識醸成を図った。

年度	開催地区	開催日数	延利用者数	延支援者数
R4年度	4地区	7日	246名	105名
R3年度	2地区	2日	58名	10名
増減	2地区	5日	188名	95名

成果	<p>新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、4地区で事業に取り組み、大規模災害に備えた地域での防災対策に資する活動に取り組んだ。三和地区では、市社協主催の訓練や講座を活用し、災害時のボランティア活動やサテライト災害ボランティアセンター設置に関する意識の醸成に努めた。</p>
課題・方向性	<p>引き続き地域住民への防災・減災の意識啓発を図っていくとともに、市社協の「災害ボランティアセンター設置運営訓練」と連動した「サテライト災害ボランティアセンター設置運営訓練」の実施等、市社協と連携・協働による事業展開を図る。</p>

指定管理施設の運営

1. 指定管理施設管理経営事業

指定管理者として、老人福祉センター、保健福祉センター（3館）をそれぞれ運営した。

施設名	指定管理期間
老人福祉センター	平成31年4月1日～令和6年3月31日
三和保健福祉センター	
南部保健福祉センター	令和2年4月1日～令和7年3月31日
姉崎保健福祉センター	令和3年4月1日～令和8年3月31日

(1) 老人福祉センター管理経営事業

高齢者に対し、各種の相談に応じるとともに健康の増進、教養の向上及びレクリエーションのための便宜を総合的に供与することを目的として、健康体操の実施、保健師による健康相談や血圧測定、その他教養講座を次のとおり開催した。

事業名		期日
健康相談・血圧測定(保健師：串田保健師)		毎月1回
各種講座	大正琴	第2・第4水曜日
	書道	第1・第3金曜日
	生け花	第2・第4木曜日
	アートフラワー	第1木曜日
	絵てがみ	第1月曜日
	囲碁会	毎週火曜日
	ゲートボール	休止

①月別利用状況

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
老人 クラブ	団体数	5	5	8	2	1	2	5	3	2	3	4	3	43 団体
	人数	80	77	106	22	18	37	76	40	39	55	68	41	659 名
一般 団体	団体数	24	23	23	22	18	23	23	22	21	20	23	22	264 団体
	人数	237	224	231	216	179	235	219	226	209	228	233	228	2,665 名
団体 合計	団体数	29	28	31	24	19	25	28	25	23	23	27	25	307 団体
	人数	317	301	337	238	197	272	295	266	248	283	301	269	3,324 名
個人人数		1,065	1,009	1,114	1,014	1,007	816	1,057	1,039	1,101	1,107	1,172	1,286	12,787 名
総 合 計		1,382	1,310	1,451	1,252	1,204	1,088	1,352	1,305	1,349	1,390	1,473	1,555	16,111 名

②利用状況前年度比較

区分	団体数		前年度 比較増減	人数		前年度 比較増減
	令和4年度	令和3年度		令和4年度	令和3年度	
老人クラブ	43 団体	27 団体	16 団体	659 名	444 名	215 名
一般団体	264 団体	257 団体	7 団体	2,665 名	2,463 名	202 名
個人				12,787 名	11,669 名	1,118 名
合計	307 団体	284 団体	23 団体	16,111 名	14,576 名	1,535 名

成果	利用者の協力を得ながら新型コロナウイルスの感染を防止できた。 健康体操やラジオ体操の実施により体力の向上、教養講座、カラオケ等の実施により利用者同士の交流を図るなどし、利用者が豊かな老後生活を過ごせるよう努めた。
課題・方向性	前年度よりは個人も団体も利用者が増えたが、以前と比べるとまだ利用者数が戻っていないので利用促進が今後も課題である。

(2) 姉崎保健福祉センター管理経営事業

① 地域福祉センター

地域住民及びボランティア等の民間福祉団体の福祉活動の拠点として、各種福祉情報の提供を総合的にいき、もって地域住民の福祉の高揚を図った。また、地域住民の福祉ニーズや相談に応じるとともに、適切な管理運営と住民参加による各種事業を実施した。

(ア) 月別利用状況〔貸室〕

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R3年度	増減
体育室	2,485	2,300	3,073	2,626	2,551	2,682	3,309	2,746	2,382	2,413	2,396	2,807	31,770	30,999	771
ボランティアルーム	306	313	419	302	246	377	555	400	376	345	448	420	4,507	4,275	232
実習室	158	199	242	283	176	195	312	215	242	275	158	202	2,657	2,633	24
調理実習室	5	5	7	53	11	5	7	8	14	33	13	34	195	101	94
研修室	525	596	748	711	497	633	836	767	739	974	513	1,589	9,128	10,631	△ 1,503
多目的ホール	573	556	834	831	472	732	1,038	758	757	586	572	689	8,398	7,354	1,044
ゲートボール場	26	18	28	53	0	17	47	19	45	18	12	27	310	248	62
相談室	42	18	59	80	39	27	84	61	40	34	51	75	610	627	△ 17
合計	4,120	4,005	5,410	4,939	3,992	4,668	6,188	4,974	4,595	4,678	4,163	5,843	57,575	56,868	707

(イ) 年間事業実施状況

事業名	期日	内容	参加者
ニコニコキッズ	5月16日 7月25日 9月26日 11月14日 12月19日 1月23日 3月20日	ボランティアによる手作り遊具を活用し、開放された遊びの場を提供することで、親子が交流を図り情報交換を行う等の子育ての支援を行うことを目的として実施した。	172名
ニコニコボランティア	4月～3月 (全16回)	ニコニコキッズで使用する手作りおもちゃの作成や、事業を運営するボランティアの育成及び支援を図ることを目的として実施した。	133名
世代間交流事業 卓球教室	8月20日 8月21日	高齢者の卓球グループの方々を講師として小学生を対象とした卓球教室を開催することで、世代間の交流を図ることを目的として実施した。(児童館と共催)	54名
バリアフリー スポーツ教室	6月26日 7月24日	障がい児(者)を中心としたバリアフリースポーツを地域の高齢者、児童、ボランティアと一緒に体験すること	128名

	8月28日	で、障がい者への理解を深め交流の機会を作るために実施した。	
昔あそび	6月25日 10月29日 1月21日 3月18日	昔から伝承されている子どもの遊びを教わるとともに一緒に楽しみながら世代間の交流を図ることを目的として実施した。(児童館と共催) 協力：シルバー友の会	274名
アネッサ発 クリーン大作戦	11月19日	施設利用者と地域住民とで地域の清掃活動を行い、地域に貢献するとともに、世代間・サークル間の交流を図り相互理解を深めることを目的として実施した。(児童館と共催)	111名
手話入門講座	1月～3月 (全10回)	市民に対し、障がいに対する理解とボランティア意識の向上を図るため、初心者を対象とした手話入門講座を実施した。	83名
チャレンジ 夏休みの課題	8月3日 8月4日 8月5日	近隣小学校児童の夏休み期間中の学習をサポートすることを通じて世代間交流を図り、相互理解を深めることを目的として実施した。(児童館及び青少年会館と共催)	60名
グランドゴルフ大会	9月25日	社会体育振興会の呼び掛けにより、世代間の交流を図ることを目的として実施した。(社会体育振興会と共催)	40名
普通救命講習	5月17日	万が一における事故等に市民が対応できる知識及び技術を身につけてもらうための講習会を実施した。	7名
施設内美化活動	4月9日 5月14日 6月11日 9月10日 10月8日	敷地内の除草を利用者に呼びかけ、ボランティア意識の向上と親睦を図ることを目的として実施した。	10名
自主防災講習会	7月(全4回)	防災についての知識を高め、地域防災の在り方や取組について学ぶことを目的として実施した。 (NPO法人ゆかいな仲間たちと共催)	259名
ボランティア 活動紹介	9月1日 ～9月30日	アネッサを利用するボランティアグループの活動紹介を掲示することで、市民のボランティア活動への関心を高めるとともに、活動の周知及び啓発を図ることを目的として実施した。	10団体
サークル活動紹介	10月1日 ～10月31日	日頃アネッサを利用しているサークルの活動紹介を掲示し、地域住民に広く周知することで、生きがいのある活動のきっかけづくりとすることを目的として実施した。	12団体
レコード交流会	4月～3月 (全12回)	レコード鑑賞(茶話会)を通じて地域住民の居場所づくりを行い、交流する機会を提供することを目的として実施した。	348名
おもいっきり体育室	6月25日 8月27日 10月29日 3月18日	参加者が自由に体を動かして、様々な遊びを楽しむことや、ボランティアと参加者同士の交流を図ることを目的として実施した。(児童館と共催)	291名
体験！ニュースポーツ	10月23日	子どもから高齢者まで様々な世代が交流する機会をつくり、ニュースポーツを通じて健康増進や親睦を深めることを目的として実施した。(市原市クラブ協会と共催)	73名
あそびばアネッサ	12月17日	子どもの居場所を提供するとともに、「あそび」を通じた住民同士の交流により、地域内の福祉ニーズの発掘や福祉に対する理解促進を図ることを目的として実施した。(姉崎地区社会福祉協議会との共催)	82名
げんき食堂アネッサ	5月～3月 (全11回)	子どもから高齢者まで様々な世代が交流し、地域の絆を深め、お互いさまの気持ちを育むことができる居場所づくりを目的として実施した。 (姉崎地区社会福祉協議会との共催)	338名

成果	保健福祉センターの特性を活かした地域の各種団体等との共催事業を実施した。特に姉崎地区社会福祉協議会と共催した「げんき食堂アネッサ」により、世代間交流や地域の絆づくり、居場所づくりが図られ、地域住民と一体となった事業展開を行うことができた。また、各事業の内容を充実させたことにより、世代間の交流が図られ、高齢者や児童、障がいのある方等が相互理解を深めることができた。
課題・方向性	今後も地域の福祉ニーズや相談に応じ、適切な管理運営と住民参加による各種事業を企画実施していく。また、アネッサ広報紙やホームページ、SNSを活用し、積極的な広報活動を行って活動のPRを進めていくとともに、ボランティアが参加しやすい環境整備に努めていく。

②老人福祉センター

高齢者が健康で明るい生活が送れるよう憩いの場を提供するとともに、豊かな心で生きがいのある生活が送れるように、健康増進や介護予防を目的とした各種講座を実施した。

(ア) 月別利用状況〔貸室〕

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R3年度	増減	
大広間	団体	0	0	0	21	0	20	0	22	0	0	0	20	83	58	25
	個人	632	610	672	652	661	651	693	648	622	560	557	620	7,578	7,578	0
和室	52	31	55	35	28	25	87	80	49	69	84	78	673	365	308	
男性浴室	559	501	432	423	559	554	604	609	512	247	0	43	5,043	5,984	△ 941	
女性浴室	199	181	194	161	151	171	204	197	206	91	0	8	1,763	1,907	△ 144	
合計	1,442	1,323	1,353	1,292	1,399	1,421	1,588	1,556	1,389	967	641	769	15,140	15,892	△ 752	

(イ) 年間事業実施状況

事業名	期日	内容	参加者
ヨガ教室	4月～6月 (全10回)	初心者向けのヨガ教室を通じて交流の場を提供するとともに、健康促進、介護予防を兼ねた心身の健康維持を図ることを目的として実施した。 講師：鈴木 なぎさ 氏	99名
一文字書を楽しむ (書道教室)	5月6日 5月13日 5月20日 5月27日	書道を通じ趣味活動や創作意欲を高めるとともに、交流の場を提供することで心身の健康維持を図ることを目的として実施した。 講師：大野 蘭秀 氏	38名
健康体操教室	2月14日 2月21日 2月28日 3月7日	健康体操を通じて交流の場を提供するとともに、健康促進、介護予防を兼ねた心身の健康維持を図ることを目的として実施した。 講師：大前 陽子 氏	37名
フラワーアレンジメント教室	11月9日 11月30日	フラワーアレンジメントを通じ趣味活動や創作意欲を高めるとともに、交流の場を提供することで心身の健康維持を図ることを目的として実施した。 講師：茂木 朋美 氏	20名
はじめての 太極拳教室	6月～8月 (全10回)	太極拳を通じて交流の場を提供するとともに、健康促進、介護予防を兼ねた心身の健康維持を図ることを目的として実施した。 講師：山崎 辰雄 氏	248名
絵手紙教室	11月～1月 (全10回)	絵手紙の基本を学ぶことで趣味活動や創作意欲を高めるとともに、交流の場を提供することで心身の健康維持を図ることを目的として実施した。 講師：東 洋子 氏	85名
介護予防講話 ・体操教室	1月14日 1月21日 1月28日 2月4日	地域包括支援センターによる講話や体操を通じ、体力の維持増進を図り介護予防に繋げることを目的として実施した。 講師：地域包括支援センターたいよう 地域包括支援センターしおみ	97名

折り紙教室	5月24日 5月25日	折り紙の基本を学ぶことで趣味活動や創作意欲を高めるとともに、交流の場を提供することで心身の健康維持を図ることを目的として実施した。 講師：福田 進一 氏	17名
ヨガ教室中級	9月～10月 (全6回)	ヨガ教室を通じて交流の場を提供するとともに、健康促進、介護予防を兼ねた心身の健康維持を図ることを目的として実施した。 講師：鈴木 なぎさ 氏	53名
メンズキッチン	1月22日 1月29日	男性が料理の基本を学ぶことで趣味活動や創作意欲を高めるとともに、交流の場を提供することで心身の健康維持を図ることを目的として実施した。 講師：市原市食生活改善協議会姉崎支部 岩撫 幸子 氏	17名
ハンドメイド(トールペイント)教室	6月～1月 (全6回)	トールペイントの基本を学ぶことで趣味活動や創作意欲を高めるとともに、交流の場を提供することで心身の健康維持を図ることを目的として実施した。 講師：黒川 美智子 氏	52名
茶話会	4月～3月 (全11回、 除9月)	一人暮らし高齢者や高齢者世帯にふれあいの場を提供し、地域との交流促進を図ることを目的として実施した。 (姉崎地区社会福祉協議会との共催)	268名
歩こう会	4月～3月 (全7回)	高齢者の介護予防と生きがいがづくりの場を提供することを目的として実施した。 (姉崎小学校区小域福祉ネットワークとの共催)	100名

成果	大広間や浴室など居場所の提供を行うことによって、利用者の体調等の変化に気づくことができ、相談支援や他機関等に繋ぐ役割を持つことができた。また、多くの参加を得て各種事業を展開することで、事業目的である社会参加の契機や介護予防に繋げ、高齢者福祉の推進に寄与することができた。
課題・方向性	前年度と比較し、浴室を除き利用者数は横ばいであるものの、今後も継続して利用を促進するために、本会ホームページやアネッサだより等での広報活動を積極的に行う必要がある。また設備の不良により浴室が使用できないなど不具合が生じているため、市と協議を行い、適切な施設管理に努めたい。

③児童館

児童に健全な遊びを提供し、健康の増進及び体力の向上を図るとともに、情操を豊かにすることを目的として各種の事業を実施した他、子育て支援や青少年の健全育成に努めた。

(ア) 月別利用状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R3年度	増減
児童	212	212	402	359	410	308	376	303	319	320	388	482	4,091	3,577	514
保護者	203	202	336	289	328	266	318	298	277	284	340	389	3,530	3,130	400
合計	415	414	738	648	738	574	694	601	596	604	728	871	7,621	6,707	914

(イ) 子育て支援拠点事業(ポヨポヨクラブ・のびのびクラブ・ひよこクラブ)「毎週火・木・金曜日」

未就学児とその保護者を対象とし、育児不安の解消や情報交換の場を提供するとともに、親子のふれあい、子育てに役立つ情報等を提供するために実施した。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R3年度	増減
ポヨポヨクラブ	65	79	112	115	119	118	108	161	51	136	162	149	1,375	957	418
のびのびクラブ	63	46	74	72	0	80	70	82	86	70	89	115	847	863	△ 16
ひよこクラブ	64	59	79	57	0	91	98	74	52	76	97	107	854	603	251
合計	192	184	265	244	119	289	276	317	189	282	348	371	3,076	2,423	653

(ウ) 相談支援事業「通年」

子育ての不安感等を緩和するために実施した。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R3年度	増減
相談件数	1	0	0	0	1	3	5	5	0	7	4	4	30	50	△ 20

(エ) 定期企画事業 「水曜日・日曜日」

毎月第2水曜日は、多胎児をもつ保護者を対象に「ふたごっちクラブ」、第3水曜日はボランティアによる「英語で遊ぼう」、第4水曜日はボランティアによる音楽を取り入れた「ママといっしょ」を実施した。また、毎週日曜日はゲームや工作活動を実施した。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R3年度	増減
英語で遊ぼう	12	18	28	/	/	19	8	/	/	26	/	19	130	155	△ 25
ママといっしょ	24	15	27	27	/	27	30	39	/	32	34	44	299	277	22
ふたごっちクラブ	3	9	7	3	/	6	7	3	6	12	11	10	77	43	34
ゲーム・工作	4	9	24	75	159	6	83	7	25	33	36	31	492	272	220
合計	43	51	86	105	159	58	128	49	31	103	81	104	998	747	251

(オ) 図書貸出状況

児童の情操の向上に寄与するもの及び子育てに関する図書の閲覧、貸出を実施した。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R3年度	増減
登録者	6	2	5	4	5	3	2	9	1	3	7	5	52	50	2
貸出(冊)	197	186	217	211	222	187	132	212	79	131	177	236	2,187	2,052	135

(カ) 年間事業実施状況

事業名	期日	内容	参加者
アネッサ発 クリーン大作戦	11月19日	施設利用者と地域住民とで行う地域の清掃活動に参加することでボランティア活動への意識を高めることを目的として実施した。 (地域福祉センターと共催)	111名
中高生による 子育てクラブ	通年	中高生ボランティアによる読み聞かせ、手あそびなどを実施した。	15名
乳幼児の為の救急法	9月29日	乳幼児を持つ保護者が家庭内における突発の事故に対処するための基礎知識を習得することを目的として実施した。 講師：姉崎消防署	35名
アネッサ自然体験	10月2日	自然に親しみながら情操を豊かにするとともに、集団生活を通して協調性及び責任感を認識させることを目的として実施した。	18名
おもいきり体育室	6月25日 8月27日 10月29日 3月18日	参加者が自由に体を動かして、様々な遊びを楽しむことや、ボランティアと参加者同士の交流を図ることを目的として実施した。 (地域福祉センターと共催)	291名
おもしろ実験教室	8月6日	児童自らが創造し、自らの手で作る楽しさを体験することにより情操を豊かにするとともに集団活動を通じて協調性及び責任を認識させることを目的として実施した。	22名
昔あそび	6月25日 10月29日 1月21日 3月18日	ボランティアとの交流を図りながら、昔から伝承されている子どもの遊びを楽しみ、交流を図るために実施した。 (地域福祉センターと共催) 協力：シルバー友の会	274名
児童館クリスマス会	12月21日	未就学児とその保護者が安心して過ごせる場所を提供し、子どもの成長と子育てに悩む保護者同士の交流の場として利用されることを目的として実施した。	105名
メッセージボード作り	12月3日	児童が自ら体験することにより、季節を感じる心や手作りすることへの喜びや豊かな心を育むことを目的として実施した。	12名

食育座談会	11月17日	食について日頃の悩みなどを話し合い、食の大切さを学ぶとともに、食に対する適切な情報提供を行うことを目的として実施した。 講師：市原市ネウボラセンター栄養士	24名
世代間交流事業 卓球教室	8月20日 8月21日	高齢者の卓球グループの方々を講師として卓球教室を開催することで、世代間の交流を図ることを目的として実施した。 (地域福祉センターと共催)	54名
乳幼児のための 交通安全教室	11月15日	乳幼児をもつ保護者が、日常における交通マナーの基礎知識を取得し、交通安全に役立てることを目的として実施した。	34名
ハンドメイド(デコパ ージュ)教室	2月4日	児童自らの手で作る楽しさを知り情操を豊かにするとともに、協調性・責任感を認識させることを目的として実施した。 講師：黒川 美智子 氏	5名
ママのリフレッシュ 講座	9月7日	日頃の育児疲れやストレスを発散し、リフレッシュしてもらうことを目的に「ガーランド作り」を実施した。	11名
児童館大運動会	10月20日	発育時期に分かれ実施している事業を合同でイベントを行うことで、通常事業とは違う情報交換や仲間作りの場の提供も兼ねるとともに、参加者間及び親子間の交流を図ることを目的に実施した。	54名
すこやか講座	10月28日 1月19日 2月28日	育児についての日頃の悩みなどを話し合い、育児の大切さを学ぶとともに、育児に対する適切な情報提供を行うことを目的として実施した。	72名
チャレンジ 夏休みの課題	8月3日 8月4日 8月5日	近隣小学校児童の夏休み期間中の学習をサポートすることを通じて世代間の交流を図り、相互理解を深めることを目的として実施した。(地域福祉センター及び青少年会館と共催)	60名
キッズ ボランティアクラブ	通年	児童のボランティア活動への参加促進を図ることを目的とし、小中学生のボランティアによる子育てクラブでの発表に向けて練習した。	129名
お楽しみ劇場	6月24日 12月2日 3月24日	人形劇を通して情操を豊かにするとともに、協調性を養うことを目的として実施した。	112名
ドールシアター	7月5日 11月8日	人形劇を通して想像力を豊かにするとともに、情操や協調性等を養うことを目的として実施した。	84名

成果	乳幼児とその保護者向けの事業だけでなく、小中高生や地域のボランティアの協力など、幅広い年齢層の方たちとの交流を持つことで児童の健全育成を図ることができた。また、図書室に自習スペースを設けたことで、宿題や自習などをするための小中高生の来館の増加につながった。館や事業のPRを行うことで、里帰りや祖父母が本市在住の方の利用など、利用者の広がりが見られた。
課題・方向性	今後のイベント開催において、新型コロナウイルスにおける参加制限が解消し人数の増加が予想されるため、利用者が安心して参加できるよう創意工夫し、快適に利用できるような環境をより一層整備していく必要がある。 また、利用者アンケート等を活用し、ニーズに合った事業を検討していくとともに、ホームページやフェイスブック、ツイッター、LINEなどのSNSを活用したPRを継続して行っていく。

(3) 三和保健福祉センター管理経営事業

①地域福祉センター

地域住民及びボランティア等の民間福祉団体の福祉活動の拠点として、各種福祉情報の提供を総合的に
行い、もって地域住民の福祉の高揚を図った。また、地域住民の福祉ニーズや相談に応じるとともに、適
切な管理運営と住民参加による各種事業を実施した。

(ア) 月別利用状況[貸室]

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R3年度	増減
ボランティアルーム	427	360	360	372	241	250	304	255	186	226	272	229	3,482	3,256	226
研修室	166	146	205	146	111	237	155	172	146	136	161	145	1,926	1,694	232
多目的ホール	0	0	0	0	127	409	448	360	295	297	333	330	2,599	2,399	200
創作活動室	126	87	90	169	69	81	72	133	91	63	77	98	1,156	1,012	144
合計	719	593	655	687	548	977	979	920	718	722	843	802	9163	8,361	802

※台風被害により多目的室ホール休室 4月1日～8月15日

(イ) 年間事業実施状況

※新型コロナウイルス対策として人数制限を加え実施

事業名	期日	内容	参加者
おもちゃ図書館	4月～3月 (毎月第2・4 土曜日)	障がい児と未就学児を対象に、おもちゃで遊ぶことを通して心身の健全な発達を促すとともに、保護者同士の交流を図ることを目的として、ボランティアグループ「かるがも」の協力により実施した。新型コロナウイルス対策のため、おもちゃの貸出のみとした。	185名
さんあーとくらぶ	4月～3月 (第2日曜 日)	障がいを持つ人を対象としたボランティアによる絵画・工作教室を実施した。 講師：米元志慶子氏	48名
フレンズ	4月～3月 (毎月第1・ 3木曜日)	発達の気になる未就学児を対象に、遊びの場と機会を提供し、遊びを通して健全な発達を促すとともに、保護者同士の交流を目的として、発達支援センターの協力を得て実施した。	492名
自由空間	4月～3月 (毎月第2木 曜日)	ひきこもりや不登校、社会に出ることが困難な方々を対象に相談や、談話することにより社会へ出ていくための支援を行った。	14名
子育てサロン さんわぼかぼか	4月～3月 (毎月第4月 曜日 8、1月 除く10回)	地区社会福祉協議会と連携、主に未就学児と保護者を対象に遊びと交流の場を提供すること及び見守りや相談等の活動を担うボランティアの育成支援を目的に実施した。	238名
世代間交流	9月17日 10月19日	60歳以上の高齢者と未就学児がおもちゃ作りやクイズラリーを介して交流することで喜びを感じてもらうことを目的として実施した。	34名
歌声喫茶	7月13日 9月14日 12月15日	サンハート利用者や地域住民を対象に、音楽を通じて参加者相互のふれあいや交流を図り、また、利用団体に対して活動の披露の場を提供した。	94名
さんさんクリーン大作戦	雨天中止	地域住民やサンハート利用者が協力して清掃活動を行うことで、交流しながら地域の環境美化を实践し、併せてボランティア活動の啓発を図ることを目的として、施設周辺のごみ拾い予定した。	—
サンハートまつり	1月22日	新型コロナウイルス感染防止の観点から規模を縮小し、施設の周知及びサークル活動の活性化を図ることを目的として、作品展覧会を実施した。	70名
市民講座	2月18日	地域住民を対象に、福祉についての関心を深め、住み良い地域づくりを推進するために「認知症サポーター養成講座」講座を実施した。	8名

成果	新型感染症対策のため実施規模の縮小を伴ったが、地域福祉関係団体等と連携・協力を得て取り組めたことで地域との連携の強化に繋げることができた。また、地域住民をはじめ幅広い層に交流の場や支援の場を提供することとすることができた。
課題・方向性	新型感染症との共生社会へ移行する時期を迎え、共生時代の新たな利用者ニーズに沿った事業の展開を工夫し、安心・安全な施設利用環境を整え利用促進につなげて行く。

②老人福祉センター

高齢者が健康で明るい生活が送れるよう憩いの場を提供するとともに、豊かな心で生きがいのある生活が送れるように、健康増進や介護予防を目的とした各種講座を実施した。

(ア) 月別利用状況[貸室]

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R3年度	増減
大広間(団体)	0	0	0	33	0	36	0	0	25	0	0	0	94	83	11
大広間(個人)	380	324	445	385	144	139	173	142	121	120	115	195	2,683	3,609	△926
和室	18	26	110	30	28	87	29	37	25	27	21	26	464	327	137
男性浴室	686	659	772	778	63	0	0	0	0	0	0	232	3,190	7,976	△4,786
女性浴室	282	255	297	279	22	0	0	0	0	0	0	50	1,185	3,046	△1,861
生活相談室	31	42	62	49	25	44	30	41	24	30	28	42	448	308	140
合計	1,397	1,306	1,686	1,554	282	306	232	220	195	177	164	545	8,064	15,349	△7,285

※老人福祉センター浴室休室 (落雷設備故障・ガスバルク更新) 8月4日午後～2月28日
(設備故障) 3月18日～3月31日

(イ) 年間事業実施状況

※新型感染症感染防止対策として定員を縮小して実施

事業名	期日	内容	参加者
健康体操教室	5月～6月 10月～11月 (全8回)	運動の習慣化を図り、基礎体力を維持と健康で生きがいのある生活に繋げることを目的として実施した。 講師：大前陽子氏	85名
楽しく俳句教室	9月(全4回)	創作活動を通して教養を高め、参加者と交流することで生きがいのある生活に繋げることを目的として実施した。 講師：木村孝一氏	26名
気功教室	6月(全4回)	健康づくりの習慣化を図るとともに、交流の場を提供することを目的として実施した。 講師：上久保治子氏	43名
ヨガ教室	5月～10月 (全8回)	健康づくりの習慣化を図るとともに、交流の場を提供することを目的として実施した。 講師：古川佳子氏	84名
絵手紙教室	7月～11月 (全4回)	趣味活動を通じて教養を高め、参加者と交流することで生きがいのある生活に繋げることを目的として実施した。 講師：向井艶子氏	33名
いつでも脳トレ教室	9月12日	日常生活の中で認知機能の低下を防ぐ脳トレを継続することで、脳を健康な状態に保ち介護予防に繋げることを目的として実施した。 講師：豊留富美氏	9名
ボールエクササイズ教室	6月～7月 (全4回)	健康づくりの習慣化を図るとともに、交流の場を提供することを目的として実施した。 講師：根本壽美子氏	36名
テーブルのできる茶の湯教室	10月～11月 (全4回)	趣味活動と交流の場を提供することを目的として実施した。 講師：白川ますみ氏	44名

一文字書教室	11月～12月 (全4回)	趣味活動と交流の場を提供することを目的とし実施した。 講師：大野文子氏	36名
リズムストレッチング教室	4月(全3回)	健康づくりの習慣化を図るとともに、交流の場を提供することを目的として実施した。 講師：山村祥子氏	22名
健康太極拳教室	9月～10月 (全4回)	運動の習慣化図り、基礎体力を維持と健康で生きがいのある生活に繋げることを目的として実施した。 講師：等々力啓子氏	30名
フレイル教室	7月26日 12月6日	フレイル予防の意識付けと実践により、高齢者の健康づくりの推進を図ることを目的として実施した。 講師：市原市保健センター職員	11名

成果	新型感染症対策で実施規模の縮小を伴ったが運動機能維持等に繋がる教室を開催するなど利用者ニーズに応えた事業展開に加え、新たにフレイル対策教室を実施し、フレイル予防への関心や健康意識の高揚が図れた。
課題・方向性	新型感染症との共生社会へ移行する中、既存事業の継続とともに共生時代の新たな高齢者ニーズに沿った事業の展開の工夫により参加意欲を高めるとともに、安心・安全な施設利用環境を整え利用促進に繋げて行く。

③児童館

児童に健全な遊びを提供し、健康の増進及び体力の向上を図るとともに、情操を豊かにすることを目的として各種の事業を実施した他、子育て支援や青少年の健全育成に努めた。(児童館施設が利用できないため2階保健指導室及びサンハート貸室を活用)

なお、新型感染症感染防止対策として定員を縮小して実施した。

(ア) 月別利用状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R3年度	増減
児童	68	77	93	98	169	102	96	121	134	84	80	126	1,248	1,280	△32
保護者	66	75	82	87	102	101	102	136	144	91	83	134	1,203	1,054	149
合計	134	152	175	185	271	203	198	257	278	175	163	260	2,451	2,334	117

※台風16号で被災し遊戯室・図書室が令和3年10月2日から令和5年3月31日まで休館継続ただし、令和3年10月20日から図書の一部貸出を2階ラウンジで再開

(イ) 子育て支援事業

下記のa)、b)、c)の事業は事業効果を高めるため個別くらぶ形式に加え合同くらぶ形式でも実施した。乳幼児をもつ保護者を対象に、育児についての情報交換や仲間作りの場を提供することにより、育児に関する不安の解消を図ることを目的とした児童厚生員による子育てクラブを開催した。

a) さんさんくらぶ・きらきらくらぶ：乳幼児〔毎週火・金曜日〕

b) よちよちくらぶ：11カ月から1歳6カ月〔毎週水曜日〕

c) あかちゃんくらぶ：生後3カ月から10カ月〔毎週木曜日〕

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R3年度	増減
さんさん	14	6	4	4	33	16	10	12	24	14	4	0	141	0	141
きらきら	12	9	16	2	13	13	13	18	18	17	13	12	156	0	156
よちよち	10	8	6	4	19	10	4	4	2	6	9	6	88	0	88
あかちゃん	4	4	0	12	5	4	18	4	9	4	4	13	81	0	81
合同	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22	22	422	△400
合計	40	27	26	22	70	43	45	38	53	41	30	53	488	422	66

(ウ) クラフト&プレイ「第1～3及び第5日曜日」・みんなあそぼう「毎週第4日曜日」

児童自らの手で作り、描き、物事を演じる楽しさを味わうことにより、情操を豊かにするとともに、集団活動を通じて協調性及び責任感を認識させることを目的に実施した。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R3年度	増減
クラフト&プレイ	0	15	3	2	0	18	6	21	11	10	7	4	97	25	72
みんな遊ぼう	6	2	0	9	11	5	2	0	4	2	2	5	48	0	48
合計	6	17	3	11	11	23	8	21	15	12	9	9	145	25	120

(エ) 児童館ボランティアクラブ

児童を対象に、ボランティアの育成を目的として、児童館ボランティアクラブに登録してもらい、イベントにおいて読み聞かせを行った。

期日	内容	参加者
8月(全10回)	夏休み期間中の親子くらぶに参加して絵本や紙芝居の読み聞かせ	26名

(オ) 放課後クラブ「毎週火～金曜日(学校の長期休暇期間を除く)」

小学生以上の放課後の居場所づくりを目的として実施した。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R3年度	増減
放課後クラブ	0	0	12	0	0	2	0	0	2	4	0	0	20	0	20

(カ) 図書貸出状況

児童の情操の向上に寄与するもの及び子育てに関する図書の閲覧、貸出を行った。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R3年度	増減
新規登録者	2	10	11	7	4	0	4	9	3	2	1	8	61	62	△1
貸出(冊)	82	128	155	162	184	149	196	239	44	115	114	151	1,719	1,078	641

※令和3年10月2日から令和5年3月31日まで休館

令和3年10月20日から図書の一部貸出を2階ラウンジで一部再開

(キ) 年間事業実施状況

事業名	期日	内容	参加者
グリーンガーデン	8月(全9回)	花の種まき及び水やり(児童館脇のウッドデッキに草花のプランターを設置)	24名
ベビーマッサージ教室	7月1日 7月15日	助産師の指導によるベビーマッサージ 講師: 嶋津一恵氏	10名
人形劇	11月18日 12月13日	「人形劇団とんとん」による人形劇上演	12名 8名
夏休み子ども工作教室	7月28日	和紙を使ったちぎり絵で季節の絵手紙作り 講師: 布施知代子氏	8名
夏休み子ども布ぞうり教室	8月5日	タオルで布ぞうり作り 講師: 宋倉春江氏	5名
夏休み子ども絵手紙教室	8月3日	野菜や人形など自分の好きな画材で季節の絵手紙作り 講師: 向井艶子氏	5名
親子ベビーヨガ教室	9月21日	乳幼児母子でベビーヨガを体験する 講師: 篠宮方美氏	10名
知ってよかったママの救急法	10月26日	乳幼児のケガや誤飲などの手当ての仕方を実技指導により学ぶ 講師: 市原市光風台分署署員	10名

世代間交流事業	12月23日	アコーディオンサークル「ドレミファ」の演奏会	16名
	1月27日	読み聞かせボランティア「佐藤エミ」氏による読み聞かせ	9名
	3月17日	アコーディオンサークル「ドレミファ」の演奏会	6名

成果	新型感染症対策で利用人数などに制限を加え、台風被害による休室が続いたため、代替として保健指導室やその他貸室を活用することで事業を実施し、親子が安心して参加でき親子の触れ合いの場を提供することができた。また事業参加を通して保護者の悩み事など聴き、適切な助言等を行うことで相互の関係性の向上や子育て支援につなげることができた。
課題・方向性	新型感染症との共生社会へ移行する時期を迎え、共生時代の子育て世代の新たなニーズを把握し事業展開に工夫を凝らすことで参加意欲を高め、安心して利用できる施設環境を整え親子の触れ合いの場を提供して行く。

④障がい者福祉センター

障がいを持った方に対し、社会との交流促進や余暇支援のための便宜を提供し、福祉の増進を図るための事業を実施した。

(ア) 月別利用状況[貸室]

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R3年度	増減
研修室	269	252	450	307	203	354	364	322	281	222	260	372	3,656	3,311	345
プレイルーム	325	336	654	450	241	373	296	265	296	232	325	354	4,147	4,091	56
障がい者談話室	325	336	654	450	241	373	296	265	296	232	325	354	4,147	4,091	56
療育相談室	41	38	39	20	56	38	18	23	11	6	34	31	355	280	75
合計	960	962	1,797	1,227	741	1,138	974	875	884	692	944	1,111	12,305	11,773	532

(4) 南部保健福祉センター管理経営事業

①地域福祉センター

地域住民及びボランティア等の民間福祉団体の福祉活動の拠点として、各種福祉情報の提供を総合的にを行い、もって地域住民の福祉の高揚を図った。また、地域住民の福祉ニーズや相談に応じるとともに、適切な管理運営と住民参加による各種事業を実施した。

(ア) 月別利用状況[貸室]

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R3年度	増減
ボランティアルーム	133	97	115	655	87	137	167	77	254	82	57	163	2,024	2,010	14
調理実習室	6	0	0	5	0	0	21	40	31	20	12	0	135	132	3
多目的室	415	561	637	1,690	530	1,273	1,404	815	1,182	668	488	822	10,485	8,865	1,620
創作活動室	0	0	7	193	4	27	88	0	103	21	31	11	485	1,095	△ 610
会議室②	91	53	116	371	19	57	75	76	78	40	85	103	1,164	2,395	△ 1,231
合計	645	711	875	2,914	640	1,494	1,755	1,008	1,648	831	673	1,099	14,293	14,497	△ 204

(イ) 年間事業実施状況

事業名	期日	内容	参加者
子育て支援事業 (子育てサロン)	12月6日 12月22日 1月14日 1月28日	市内在住の就学前の児童を対象に、遊びなどを通して心身の健全な発達を促すとともに、同じように子育てをしている方々同士の交流の場を目的としたサロンを実施した。(児童館と共催) 講師 ボランティアグループ「ぐりとぐら」(親子うきうきお話し会) 市原市南総消防署救急隊 いちほらシルバー友の会(昔あそび) 更生保護女性会南総支部(絵本の読み聞かせ)	56名

なのはなフェスタ	2月25日	地域住民の交流と当館の利用拡大を目指し、各センターと地域の関係団体との連携によりイベントを行い様々な世代が交流し、またボランティアとして参画していただくことで、地域の担い手としてできる場（居場所）づくりを目指すことを目的に計画した。 【※ 新型コロナウイルスの影響により中止】	—
ふれあいサロン事業	10月11日 1月20日 1月27日 2月22日	一人暮らし高齢者や介護に不安を抱える方などが、地域で孤立することなく、安心していきいきとした生活が送れるように、交流やふれあいの場を目的としたサロンを実施した。 講師：川名 謙二 氏 中村 佳代 氏（トータス） 藤岡 順子 氏 四方 洋平 氏（ひまわり） 協力団体：市原市地域包括支援センター トータス アコーディオンドレミファ 市原市地域包括支援センター ひまわり	73名
地域交流事業（歌声喫茶）	5月11日 10月19日 12月14日	楽器の生演奏に合わせて参加者が一緒に歌う（マスク着用）ことにより、参加者相互のふれあいや交流を図ることを目的に実施した。 協力団体：チャーリーウクレレクラブマハロ アコーディオンいちほら	105名
世代間交流事業（アコーディオン演奏会他）	2月18日	市内在住の未就学児から高齢者まで幅広く参加者を募り、楽しい時間を過ごす中で、多様な世代の相互理解を深め、より明るい生活が送れるようにすることを目的に実施した。 協力団体：アコーディオンドレミファ	37名
障がい者交流事業（ポッチャ体験交流会）	3月4日	障がいのある方とボランティアや地域住民との交流の場としてポッチャの体験・交流会を通じ、障がい者への理解と交流を図り、思いやりのある地域づくりを目的に実施した。 協力団体：市原ポッチャクラブ	42名

成果	新型コロナウイルスの影響下ではあるが、「なのはなフェスタ」を除き、感染対策と人数制限を行って、予定した全ての事業を実施できた。また、大半の事業で、募集した参加者を確保することができ、健康で健全な心身の発達を促すとともに、ふれあいや交流の場を提供することができた。
課題・方向性	新型コロナウイルスの影響下において参加者の増加を図ることの難しさはあるが、住民ニーズを反映した事業の展開を行うことにより、効果的なふれあいの場や交流の場を展開していく必要がある。

②中高年健康増進施設

地域の中高齢者の健康増進に寄与するために、各種教室を開催した。

（ア）月別利用状況〔貸室〕

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R3年度	増減
健康増進施設	1,486	1,456	1,781	1,854	1,640	1,651	1,625	1,358	1,256	1,423	1,299	1,818	18,647	18,295	352

（イ）年間事業実施状況

事業名	期日	内容	参加者
水中ウォーキング	月1回月曜日 ※8、9月：2回 年14回	健康増進室・歩行用プール安全講習会受講登録済みの方を対象に、アクアビクス（水中エアロビクス）・アクアウォーキング（水中歩行）に筋トレを加味しながら、体力向上と健康意識の高揚を目的に実施した。 講師：株式会社 パーソンアンドパーソンスタッフ	111名
月例講習会（体力向上レッスン）	月1回 （月・木曜日） 年12回	健康増進室・歩行用プール安全講習会受講登録済みの方を対象に、健康な身体を創るために筋トレなどを行うとともに健康意識を高めることを目的に実施した。 講師：株式会社 パーソンアンドパーソンスタッフ	98名

安全講習会	毎週3回 (火・木・土曜日) 年162回	安全管理を徹底し事故防止を図ることを目的に実施した。	1,596名
簡単ストレッチ教室	週3回 (水・金・日曜日) 年146回	準備体操・整理体操としてのストレッチの普及、定着を図ることを目的に実施した。 講師：株式会社 パーソンアンドパーソンスタッフ	92名

成果	インストラクターによる的確な指導に沿って運動を行うことで、より効果が期待できるとともに、参加者の健康意識の高揚を図ることができた。
課題・方向性	新型コロナウイルスの影響により減っていた各事業の参加者並びに健康増進室自体の利用者も徐々に戻りつつある。今後も、より多くの高齢者が安心して利用できる体制と、利用促進に向けた広報やニーズに合った事業内容の検討が求められる。

③老人福祉センター

高齢者が健康で明るい生活が送れるよう憩いの場を提供するとともに、豊かな心で生きがいのある生活が送れるように、健康増進や介護予防を目的とした各種講座を実施した。

(ア) 月別利用状況[貸室]

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R3年度	増減
大広間(団体)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大広間(個人)	343	322	362	339	344	312	314	321	294	302	311	359	3,923	3,849	74
和室	0	12	0	0	3	0	0	38	10	0	0	5	68	120	△ 52
合計	343	334	362	339	347	312	314	359	304	302	311	364	3,991	3,969	22

(イ) 年間事業実施状況

事業名	期日	内容	参加者
健康体操教室	7月～12月 (全10回)	健康体操を通じて健康維持と仲間作りを目的として実施した。 講師：山口 紀美代 氏	224名
ヨガ教室① 「初級」	5月～7月 (全8回)	ヨガを通じて、健康維持と仲間作りを目的として実施した。 講師：古川 佳子 氏	204名
ヨガ教室 「中級」	9月～11月 (全8回)	ヨガを通じて健康維持と仲間作りを目的として実施した。 講師：古川 佳子 氏	201名
ハーモニカ教室	6月～8月 (全8回)	ハーモニカを通じて高齢者に趣味活動と参加者同士の交流の機会とすることを目的として実施した。 講師：高松 洋子 氏	85名
一文字書教室	1月～2月 (全5回)	書道を通じて高齢者に趣味活動と参加者同士の交流の機会とすることを目的として実施した。 講師：大野 文子 氏	47名
太極拳教室	1月～2月 (全5回)	太極拳を通して、健康づくりの推進と参加者同士交流の機会とすることを目的として実施した。 講師：等々力 佳子、松井 将子、久保田 和彰	98名
太巻き寿司教室	11月22日 1月24日 (全2回)	市原市の伝統的な太巻き寿司の作り方を学ぶとともに参加者同士の交流の機会とすることを目的として実施した。 講師：小出 一子 氏	22名
健康教室① 「講話」	2月9日	高齢者を対象に「がんを予防するための栄養講座」を実施した。 講師：千葉県がんセンター栄養科 上席専門員 石橋 裕子 氏	15名
健康教室② 「料理教室」	10月27日	料理実習を通して日々の食生活全般の活性化を図るとともに、参加者同士の交流の機会とすることを目的に実施した。 「腎臓を守るための料理」 講師：千葉県がんセンター栄養科 上席専門員 石橋 裕子 氏	17名
健康教室③ 「料理教室」	11月30日	料理実習を通して日々の食生活全般の活性化を図るとともに、参加者同士の交流の機会とすることを目的に実施した。 「感染症を予防するための料理」 講師：千葉県がんセンター栄養科 上席専門員 石橋 裕子 氏	17名

健康教室④ 「チャレンジ太極拳」	11月24日 12月1日 (全2回)	太極拳を通して、心身の健康と基礎体力の向上を図ることを目的として実施した。 講師：等々力 佳子、松井 将子、久保田 和彰	21名
---------------------	--------------------------	-----------------------------------------------------------------	-----

成果	新型感染症の影響下ではあるが、感染対策と人数制限を行って予定した全ての事業を実施できた。また、大半の事業で募集した参加者を確保することができ、健康講座では高齢者の体力の維持と増進を図ることができ、教養講座では創作活動や参加者相互の交流により、生きがいのある生活に繋げることができた。
課題・方向性	これまでの事業を継続するとともに、より多くの高齢者の参加を促すように、住民ニーズを把握して事業内容に反映させる必要がある。

④児童館

児童に健全な遊びを提供し、健康の増進及び体力の向上を図るとともに、情操を豊かにすることを目的として各種の事業を実施した他、子育て支援や青少年の健全育成に努めた。

(ア) 月別利用状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R3年度	増減
児童	70	55	120	135	136	96	103	88	99	70	82	114	1,168	989	179
保護者	56	46	94	114	97	82	85	74	94	72	88	102	1,004	925	79
合計	126	101	214	249	233	178	188	162	193	142	170	216	2,172	1,914	258

(イ) 子育て支援事業

乳幼児をもつ保護者を対象に、育児についての情報交換や仲間作りの場を提供することにより、育児に関する不安の解消を図ることを目的とした児童厚生員による子育てクラブを開催した。

- a) あかちゃんクラブ「ほっぷ」：生後3ヶ月頃からおおよそ1歳頃まで [毎週金曜日]
- b) ちびっこクラブ「すてっぷ」：1歳頃から未就学児 [毎週水曜日]
- c) 親子クラブ「じゃんぷ」：1歳頃から未就学児 [毎週土曜日]

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R3年度	増減	
あかちゃんクラブ「ほっぷ」		8	12	24	27	34	22	12	16	16	16	36	57	280	267	13
ちびっこクラブ「すてっぷ」		20	11	45	38	58	33	40	35	25	36	21	26	388	416	△28
親子クラブ「じゃんぷ」		32	18	31	46	15	39	49	25	30	32	46	28	391	276	115
合計		60	41	100	111	107	94	101	76	71	84	103	111	1,059	959	100

(ウ) 定期企画事業『わくわくイベント』工作、おはなし会、ゲームなど 「月3回 日曜日」

児童に工作や読み聞かせなどを通して、情操を豊かにするとともに協調性を養うことを目的として実施した。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R3年度	増減
参加者	0	8	7	16	6	4	5	5	10	10	12	21	104	151	△47

(エ) 図書貸出状況

児童の情操を豊かにする紙芝居や図書の閲覧、貸出を行った。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R3年度	増減
登録者	5	0	5	6	3	2	3	9	3	2	3	7	48	59	△11
貸出(冊)	194	160	216	300	252	200	177	231	54	121	175	255	2,335	1,808	527

(オ) 相談支援事業

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R3年度	増減
相談件数	1	2	4	2	2	2	2	1	0	0	1	2	19	11	8

(カ) 年間事業実施状況

事業名	期日	内容	参加者
子どもボランティア育成支援事業	7月～10月 (全11回)	ボランティア体験を通して、社会福祉についての理解と関心を深めることを目的として実施した。 ・わくわくイベントの補助 ・子育てクラブ参加、絵本の読み聞かせ ・工作準備と補助、カードシアター製作、上演 ・子どもの遊び相手	6名
自然体験活動事業 「なのはな探検隊」	6月26日 10月8日	自然に親しむことにより情操を豊かにし、ひきこもりや不登校で悩みをかかえている家族が他者と交流し、自然と触れ合いながら社会と繋がる機会とすることを目的に実施した。 ・身近な市原の自然を親しむ ・植物や生き物を観察し生態を学ぶ 講師：柳池 繁 氏	18名
なのはなシアター 「親子うさぎ☆おはなし会」	6月8日 12月6日	児童の豊かな情操と協調性等を育むことを目的に実施した。 ボランティアグループ「ぐりとぐら」による人形劇上演	28名
乳幼児の為の救急法	7月27日	乳幼児を持つ保護者が家庭内における突発事故に対応する為の基礎知識を習得することを目的に実施した。 ・心肺蘇生 ・AEDの説明 ・気道内異物除去の方法 ・熱中症の対策、処置	16名
世代間交流事業 「昔あそび」 「アコーディオン演奏会」	1月14日 2月18日	子どもから高齢者まで様々な世代の方々が交流する機会を作り、昔遊びの面白さの再発見、遊びの技術の伝承を通じて、他者との関わり方、おもいやりの心の育成を育むことを目的に実施した。(地域福祉センターと共催) 協力団体：「いちほらシルバー友の会」 「アコーディオンドレミファ」	59名
なのはな実験教室	8月7日	児童が科学に親しみ、豊かな情操を育むことを目的として、科学遊びや工作を実施した。 ・とぶ科学(フィルムケースロケット) ・力の科学(バランスとんぼ、もどり車、サソリの標本) ・圧力の科学(空気砲) 講師：柳池 繁 氏	8名
ベビーマッサージ	11月11日	親子のスキンシップを図り、家庭での楽しい子育てと親のリフレッシュに繋げることを目的に実施した。 講師：森澤 美津紀 氏	8名
親子であそぼう (親子体操)	11月2日	乳幼児を持つ保護者を対象に、家庭で楽しく子育てに取り組み、子どもが健やかに育つように支援することを目的として、親子で楽しめる体操や身体遊びを実施した。 講師：蔭山 陽子 氏	15名
季節のイベント	6月～3月 (34回)	児童自ら体験することで情操を豊かにし、協調性を育むことを目的として、季節感のある工作やおはなし会を実施した。	269名
親子の料理教室	2月5日	親子で料理を楽しむことによって子どもの豊かな情操を育むことを目的としてお菓子作りを実施した。 講師：吉野 知子 氏	9名

成果	今年度も参加人数や利用時間の制限はあったが、親子のふれあいの場となり豊かな情操や協調性を育むことができた。保護者は情報交換や息抜き場となり、心の安定に繋がった。
課題・方向性	来年度からは徐々に通常に戻れるよう、利用者の安全配慮に充分努めていく。また、SNS等も活用し、子育て中の親子の交流の場の充実に努めていきたい。

⑤ 障がい者福祉センター

障がいを持った方に対し、社会との交流促進や余暇支援のための便宜を提供し、福祉の増進を図るための事業を実施した。

(ア) 月別利用状況[貸室]

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R3年度	増減
障がい者交流室	491	449	530	749	502	433	441	456	553	462	463	555	6,084	6,597	△ 513
会議室①	131	144	204	640	56	423	452	225	491	101	147	119	3,133	3,585	△ 452
合計	622	593	734	1,389	558	856	893	681	1,044	563	610	674	9,217	10,182	△ 965